

# 十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡

—令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事—

2023

山梨県峡東農務事務所  
山梨市教育委員会  
昭和測量株式会社



## 序

本書は県営畑地对総合整備事業日下部地区 1-1 工区ほ場整備工事に伴って行われた十王堂遺跡および井尻氏屋敷跡発掘調査の報告書です。

井尻氏屋敷は現在も屋敷を取り囲むように土塁が巡っており、一部には堀の跡とみられる地形も残っています。今回は井尻氏屋敷の西側の範囲 1090m<sup>2</sup>について、発掘調査を実施しました。

調査では古代の竪穴建物 5 軒や、井尻氏屋敷の土塁や堀と関係する可能性のある溝、また、峽東条里と関係する可能性のある溝や、集石遺構・配石遺構などが発見され、この地域の古代から中世の様相を知るうえで重要な手がかりを得ることができました。

最後になりますが、調査を担当していただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます、序といたします。

令和5年3月

山梨市教育委員会

教育長 嶋崎修



## 例 言

1. 本報告書は、山梨県山梨市下井尻 977 番地から 1024-3 番地に所在する十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は令和 2 年度県営畑地帯総合整備事業に伴い、山梨県峡東農務事務所の費用負担により実施した。
3. 発掘調査と整理報告書作成業務は、昭和測量株式会社が主体となり、山梨市教育委員会の指導の下、実施した。  
[調査体制]  
調査担当 小谷亮二・藤巻浩太郎(昭和測量株式会社文化財調査課)  
調査顧問 新津健(昭和測量株式会社文化財調査課研究顧問)  
発掘従事者 小澤美幸・鬼島章・北川原清美・鈴木紗衣・中澤保・永田正幸・古屋哲郎  
整理従事者 齊藤里美・佐野香織
4. 発掘調査は令和 2 年 10 月 12 日～令和 3 年 2 月 19 日にかけて行った。整理・報告書刊行業務は令和 4 年 9 月 13 日～令和 5 年 3 月 15 日まで、昭和測量株式会社文化財調査課事務所内で行った。
5. 本書に関わる遺構写真は、小谷亮二、藤巻浩太郎が撮影した。遺物写真は小谷・佐野が撮影した。
6. 本書の編集は小谷亮二が行った。執筆分担は以下の通りである。  
第 1 章第 1 節：駒田真人(山梨市教育委員会)  
第 1 章第 2・3 節、第 2 章・第 4 章・第 5 章：小谷亮二  
第 3 章 藤巻浩太郎
7. 発掘調査および報告書作成にあたって次の方々の御指導と御協力を賜った。深く感謝の意を表する。  
八巻興志夫 井尻俊之 雲光寺
8. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会にて保管している。

## 凡 例

1. 本書で使用した地図は第 1 図：国土地理院発行の地形図『塩山』1/25,000 である。
2. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各図に表示した。写真図版の縮尺は任意である。
3. 遺構平面図の方位は、各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
4. 遺構平面図の X・Y 座標値は、世界測地系の平面直角座標系第 VIII 系に基づく値である。単位はメートルである。
5. 遺構断面図の数値は、標高(T.P.)を示す。単位はメートルである。
6. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づいた。
7. 発掘調査では以下の遺構記号を使用した。遺構番号は種別ごとに番号を付した。本書でも発掘調査時点のものを使用した。  
住居址：S I 土坑：S K (集石土坑を含む) 小穴：S P その他の遺構：S X
8. 遺物番号は出土地点にかかわらず連番で付した。本書における挿図・写真図版・遺物分布図・遺物観察表および本文中の遺物番号はそれぞれ対応している。

## 本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と層序	7
第1節 調査の方法	7
第2節 基本層序	8
第4章 調査の成果	11
第5章 総括	57
第1節 調査の成果と課題	57
第2節 十王堂・井尻氏	60

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第20図 遺構分布図(6-2区)	29
第2図 地形分類図	4	第21図 1号住居址(S I 1)	30
第3図 周辺の遺跡分布図	5	第22図 2号住居址(S I 2)	30
第4図 1-1区北壁土層断面図	8	第23図 2号住居址遺物出土地点図	31
第5図 2区北壁土層断面図	9	第24図 3号住居址(S I 3)	32
第6図 5-1区南壁土層断面図	9	第25図 4・5号住居址(S I 4・5)(1)	32
第7図 5-1区北壁土層断面図	9	第26図 4・5号住居址(S I 4・5)(2)	33
第8図 5-2区北壁土層断面図	9	第27図 5号住居址遺物出土地点図	34
第9図 6-1区北壁土層断面図	10	第28図 溝状遺構(S D 3)(1)	35
第10図 6-2区北壁土層断面図	10	第29図 溝状遺構(S D 3)(2)	36
第11図 遺構全体図・基本層序位置図	11	第30図 溝状遺構(S D 3)(3)	37
第12図 遺構分布図(1-1区)	21	第31図 溝状遺構(S D 1・2・4)	38
第13図 遺構分布図(1-2区)	22	第32図 1区1号水路	39
第14図 遺構分布図(2区)	23	第33図 その他の遺構(S X 1)	40
第15図 遺構分布図(3区)	24	第34図 1号土坑(S K 1)	40
第16図 遺構分布図(4区)	25	第35図 1号土坑(S K 1) 遺物出土地点図	40
第17図 遺構分布図(5-1区)	26	第36図 2・3号土坑(S K 2・3)	41
第18図 遺構分布図(5-2区)	27	第37図 4・5号土坑(S K 4・5)	41
第19図 遺構分布図(6-1区)	28	第38図 4・5号土坑(S K 4・5) 断面図	42

第39図	5号土坑(S K 5)断面図	42	第54図	25号土坑(S K 25・集石土坑)	45
第40図	6・15号土坑(S K 6・15)	42	第55図	26号土坑(S K 26・集石土坑)	45
第41図	7号土坑(S K 7)	42	第56図	31号土坑(S K 31・集石土坑)	46
第42図	8号土坑(S K 8)	43	第57図	S P 1	46
第43図	10号土坑(S K 10)	43	第58図	S P 2	46
第44図	13号土坑(S K 13)	43	第59図	S P 3	46
第45図	14号土坑(S K 14)	43	第60図	遺物実測図(1)	47
第46図	17号土坑(S K 17)	43	第61図	遺物実測図(2)	48
第47図	18号土坑(S K 18)	44	第62図	遺物実測図(3)	49
第48図	19号土坑(S K 19)	44	第63図	遺物実測図(4)	50
第49図	20号土坑(S K 20・集石土坑)	44	第64図	遺物実測図(5)	51
第50図	21号土坑(S K 21・集石土坑)	44	第65図	遺物実測図(6)	52
第51図	22号土坑(S K 22・集石土坑)	44	第66図	遺物実測図(7)	53
第52図	23号土坑(S K 23)	45	第67図	地籍図に見える土塁の痕跡と現況	58
第53図	24号土坑(S K 24)	45	第68図	遺構と土塁の位置関係	59

## 表目次

第1表	周辺の遺跡	6	第4表	石製品観察表	56
第2表	土器・陶磁器観察表	54	第5表	金属製品観察表	56
第3表	中世遺物観察表	56			

## 写真図版目次

図版1	調査区全景 西から	6-2区 S I 4・5 検出状況 西から	
	調査区全景 北西から	6-2区 S I 4 カマド・焼土状況 南から	
図版2	6-2区全景	6-2区 S I 4・5 東西ベルトセクション 南から	
	6-1区全景	6-2区 S I 4・5 南北ベルトセクション 西から	
	5-2区全景		
	5-1区全景		
図版3	4区全景	図版6	6-2区 S I 4・5 西壁セクション 東から
	1~3区全景	6-2区 S I 5 カマド 南東から	
図版4	1-1区 S I 1 検出状況 南から	6-2区 S I 5 土器出土状況 西から	
	1-1区 S I 1 東西セクション 南から	2区 S D 1 (写真下) 東から	
	1-1区 S I 1 南北セクション 西から	2区 S D 1 セクション 南から	
	5-2区 S I 2 完掘 北西から	2区 S D 2 北から	
	5-2区 S I 2 東西セクション 南から	2区 S D 2 南壁セクション 北から	
	5-2区 S I 2 南北セクション 西から	2区 S D 2 南-東壁セクション 西から	
	5-2区 S I 2 掘り方 北西から	図版7	6-2区 S D 3 北壁セクション (西側) 南から
	5-2区 S I 2 遺物出土状況 東から	6-2区 S D 3 北壁セクション 南から	
図版5	6-1区 S I 3 完掘 東から	6-2区 S D 3 東壁セクション 西から	
	6-1区 S I 3 西壁セクション 東から	6-2区 S D 3 南壁セクション 北から	
	6-1区 S I 3 土器出土状況 東から	5-2区 S D 3・S I 2 北から	
	6-2区 S I 4・5 検出状況 南から		

- 5-1区 SD3 北西から  
4区 SD3 北から  
4区 SD3 東西方向石列 南から
- 図版8 4区 SD4 西から  
4区 SD4 南壁セクション 北から  
1-2区 1号水路 北から  
1-2区 1号水路 西から  
1-2区 1号水路 北西から  
1-2区 1号水路 南西から  
1-2区 1号水路 南から
- 図版9 1-1区 SK1 南東から  
1-1区 SK1 配石 東から  
1-1区 SK1・4・5 西から  
1-1区 SK3 南東から  
1-1区 SK6 南東から  
1-1区 SK6セクション 南東から  
1-1区 SK7 東から  
1-1区 SK7セクション 東から
- 図版10 1-1区 SK18 南東から  
1-1区 SK18セクション 南東から  
1-1区 SK19 南から  
1-1区 SK19セクション 南から  
1-1区 SK20 南東から  
1-1区 SK20セクション 南から  
1-1区 SK22 北から

- 1-1区 SK23 南から  
図版11 1-1区 SK25 南から  
1-1区 SK26 東から  
1-1区 SK26セクション 東から  
1-1区 SK28 南東から  
1-1区 SK31 南東から  
1-1区 SK31 西から  
1-1区 SP1 東から  
1-1区 SX1 西から
- 図版12 遺物写真図版(1)  
図版13 遺物写真図版(2)  
図版14 遺物写真図版(3)  
図版15 遺物写真図版(4)



# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

十王堂遺跡および井尻氏屋敷跡は、甲府盆地の東部、山梨市下井尻地区内に所在する。山梨県峡東農務事務所が計画する県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区工事範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地である十王堂遺跡及び井尻氏屋敷跡に該当しており、令和元年度に山梨市教育委員会が埋蔵文化財の試掘確認調査を実施した。当該調査では遺物・遺構は確認されなかったものの、工事範囲は近世以前にさかのぼる可能性のある井尻氏屋敷に現存する土塁に隣接しており、また、井尻氏屋敷の南側にも館の可能性のある地割がみられることから、今回の発掘対象地である1090㎡の範囲の遺跡の保護について峡東農務事務所と山梨市教育委員会が協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。

県峡東農務事務所は昭和測量株式会社現場調査を委託し、令和2年9月4日に山梨市教育委員会を含めた三者協定が締結された。調査の監理は山梨市教育委員会が行うこととなった。9月4日に文化財保護法92条の届出が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され、10月12日から現場調査に着手する運びとなった。

## 第2節 発掘作業の経過

令和2年

- 9月4日～10月11日 準備工・ほ場整備工事との調整を行う。
- 10月12日 1区～3区の表土掘削を開始。
- 10月14日 2、3区の石積みに沿って溝状のプランを検出。
- 10月19日 1区～3区の表土掘削が終了。2区で集石土坑を検出。
- 10月26日 2区で竪穴状遺構を検出。
- 11月2日 1区の最北側で石列と思われるプランを検出。
- 11月6日 1区で甲斐型土器が出土。
- 11月26日 1区でS I 1のカマドを検出。
- 12月8日～9日 6区の表土掘削を行う。
- 12月10日 空中写真撮影を行う。
- 12月11日 4区の表土掘削を行う。
- 12月14日 6区の溝（堀）を検出。掘削を開始する。
- 12月16～21日 1・2区の埋戻しを行う。
- 12月24日 竪穴状遺構から須恵器の坏蓋が出土。

令和3年

- 1月5日 4区で住居址と溝状のプランを検出した。
- 1月16日 6区で住居址を検出。
- 1月21日 6区の住居址でカマドを検出し焼土を確認。
- 1月27日～2月1日 5区の表土掘削と4区の埋戻しを行う。
- 2月2日 5区で溝（堀）と住居址を検出。
- 2月13日 5区の調査終了。
- 2月16日 6区の調査終了。
- 2月17日～19日 5区、6区の埋戻しを行う。
- 2月19日 機材の撤収を行い調査は終了した。

### 第3節 整理等作業の経過

整理・報告書刊行業務は、令和4年9月13日から令和5年3月15日の間、山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課の事務所内で行った。

整理作業は遺物の水洗・注記から開始した。遺物の接合・復元・選別作業と行き、実測とトレース、写真撮影などの記録作業を行った。現場の調査写真や遺構図面についても順次整理作業を進め、遺物観察表の作成、報告書の挿図・図版の編集、本文執筆と作業を行い、令和5年3月15日に報告書を刊行した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境（第1・2図）

山梨市の地形は大きく分けると、①山地、②山地緩斜面、③砂礫台地、④山麓に位置する開析扇状地、⑤平野部に位置する扇状地（2つに区分=⑤-1・⑤-2）、⑥谷底平野に分類される（『山梨市史』）。

①山地は市域の西部に広がっており、西に市域の中で最も高い標高1,376mの帯那山の他、平野部の石森山は基盤岩で一連の岩脈の高い部分が地表に露出していると考えられている。

②山地緩斜面は笛吹川フルーツ公園に至る傾斜角が約15度以下の緩斜面が該当する。

③砂礫台地は江曾原付近や水口と堀内の間に小規模な分布が認められる。現在の河床より高さがある礫層である。

④山麓に位置する緩斜面の解析扇状地は、甲州市勝沼町上岩崎、山梨市上市川から大工の日向・水口などが該当する。後述する平野部に比べると傾斜が大きく、現河床とは比高差がある。

⑤平野部に位置する解析扇状地は2つに区分できる。⑤-1は現河床より高い位置にあり、堆積物が相対的に古い扇状地で、⑤-2は現河床と明瞭な高度差をもたない低い位置の扇状地である。⑤-1の境目は鴨居寺辺りが下流側の限界となるが崖によって明確に区別されている訳ではない。⑤-2は笛吹川、重川、日川の三河川の合流地点が該当する。このあたりでは旧河道の痕跡が確認することが出来る。

⑥谷底平野は兄川、弟川、西川に沿った狭く長い低地、亀甲橋より上流の笛吹川の流れによって浸食され出来た谷が該当する。

十王堂・井尻氏屋敷跡の所在する下井尻は、甲府盆地の東北部に位置する秩父山地から流下する笛吹川と大菩薩山地から流下する重川に挟まれた④の開析扇状地に位置している。笛吹川からは東に直線距離にして約600m程に位置する。

### 第2節 歴史的環境（第3図・表1）

周辺の遺跡を第1節で分類した地形に沿って見てみる。

①山地の先端部の標高477.6mの地点には荒神山窯跡（87）が位置している。平安時代の土師器生産遺跡である。窯跡と思われる遺構3基、土坑状の落ち込みが2箇所検出された。笛吹川の対岸には宮ノ前（七日子）遺跡、日下部遺跡が位置している。遺物は土師器の皿・杯・足高台杯・柱状高台杯などの他に、トレンチから灰釉陶器が出土している。十一世紀後半～十二世紀前半に位置づけられる。

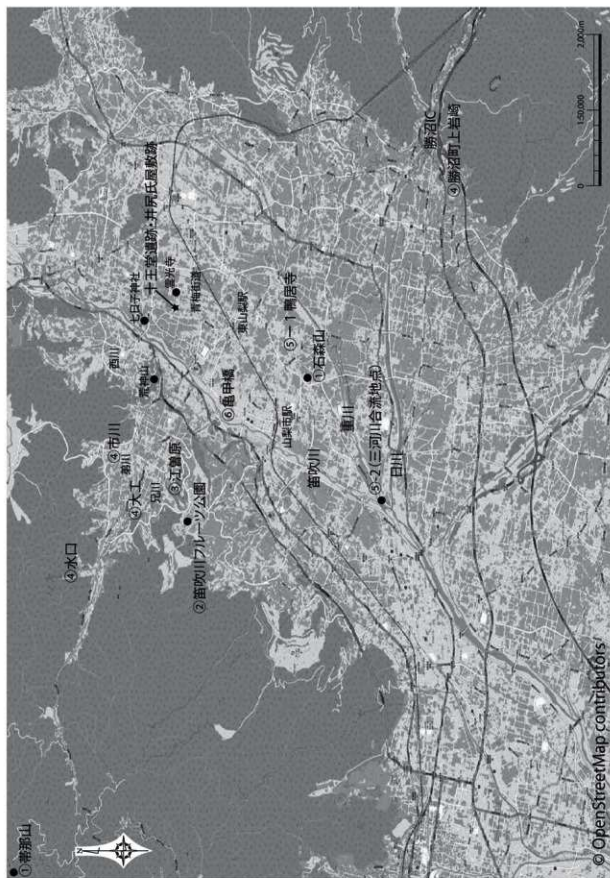
②山地緩斜面には泉林遺跡(97)が位置する。標高470mに位置し縄文時代中葉の藤内式〜井戸尻式土器が出土した。

③砂礫台地上には浜田遺跡（60）が位置する。縄文時代中期末の曾利式終末期の土器が出土した。

④開析扇状地には大規模な集落が発見された。立石遺跡（20）（古屋善博氏所蔵資料）が位置する。縄文時代早期の押型文土器や燃糸文土器に伴う石器、中期井戸尻式や曾利式期の土器、後期・晩期の石器が出土している。平成十年の分布調査では五領ヶ台式、勝坂式、曾利式土器が出土している。2000（平成12）年の東山聖苑地点の調査では曾利IV式期の遺物が主体を占める。ヒスイ製垂飾品が出土している。遺構は土坑が中心で性格としては墓域の可能性が考えられる。



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図 (地名は地図情報に基づき表記した)



第3図 周辺の遺跡分布図



表1 周辺の遺跡

NO.	遺跡名	種類	時代	所在地	NO.	遺跡名	種類	時代	所在地
1	上ノ宮遺跡	散布地	奈良/平安	七日市場字上ノ宮	70	村西遺跡	縄文		東ノ村西
2	月見氏神社跡	城跡跡	近世	下月見字上ノ宮	71	久保内遺跡	散布地	平安	東ノ久保
3	阿波元宮遺跡	散布地	縄文/古墳/奈良/平安	下月見字阿波元宮	72	丸山遺跡	縄文		東ノ丸山
4	宮ノ前(上ノ宮)遺跡	集落跡	縄文/古墳/奈良/平安	七日市場字宮ノ前	73	東田遺跡	社寺跡	中世/近世	東ノ東田
5	下不動遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字下不動	74	中島遺跡	散布地	縄文/平安	東ノ中島
6	大神原北遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字大神原	75	下河原遺跡	その他	中世/近世	東ノ下河原
7	中ノ宮遺跡	散布地	平安	七日市場字中ノ宮	76	大久保遺跡	縄文		東ノ大久保
8	西ノ宮遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字西ノ宮	77	野北北遺跡	その他	中世/近世	市川字野北
9	大塚原山遺跡	散布地	平安	七日市場字大塚原	78	神明前遺跡	社寺跡	中世/近世	市川字神明前
10	宮ノ西遺跡	散布地	古墳/中世	下月見字宮ノ西	79	神明前遺跡	散布地	平安	市川字神明前
11	藤原宮塚	塚	中世/近世	七日市場藤原宮	80	野北北遺跡	散布地	平安	市川字野北
12	神明遺跡	散布地	奈良/平安	七日市場字神明	81	市川東遺跡	散布地	縄文	市川字神明前
13	御倉北遺跡	散布地	平安	下月見字御倉	82	大塚遺跡	散布地	平安	市川字大塚
14	御倉山遺跡	散布地	縄文/平安	下月見字御倉	83	福山古遺跡	散布地	平安	市川福山
15	大塚原北遺跡	散布地	平安	下月見字大塚原	84	西ノ山遺跡	その他	中世/近世	北ノ西ノ山
16	飯塚遺跡	散布地	平安	下月見字飯塚	85	中ノ西遺跡	散布地	平安	東ノ中ノ西
17	相塚北遺跡	散布地	古墳	下月見字相塚	86	朝熊遺跡	集落跡	平安	北ノ朝熊山
18	鳴石遺跡	散布地	中世/奈良	下月見字鳴石	87	長瀬山空跡	古墳	平安/中世	東ノ長瀬山
19	相塚南遺跡	散布地	中世	下月見字相塚	88	朝日田遺跡	集落跡	古墳	北ノ朝日田
20	立ノ宮遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	小原字立ノ宮	89	上ノコノエ遺跡	集落跡	縄文/平安	北ノ上ノコノエ
21	八ノ宮遺跡	集落跡	縄文	小原字八ノ宮	90	兄川岡林遺跡	その他	旧石器	南ノ字兄川(兄川岡林)
22	日下宮遺跡	集落跡	縄文/弥生/古墳/平安/中世	小原字大泉	91	霞八幡神社其家村中野	社寺跡	中世/近世	北
23	安田宮遺跡	城跡跡	中世	小原字八ノ宮	92	霞八幡神社	神社	中世	北ノ神明
24	下ノ原遺跡	散布地	縄文	七日市場字下ノ原	93	清水神跡	神社跡	近世	北ノテウノコシ
25	安田宮遺跡	城跡跡	奈良/平安	小原字大塚	94	霞八幡神社日下地跡	社寺跡	平安/中世	南
26	安田宮遺跡	城跡跡	中世	小原字宮ノ前	95	宮ノ上遺跡	散布地	平安	七日市場字宮ノ上
27	大久保遺跡	散布地	平安	小原字大久保	96	市川北遺跡	散布地	縄文	市川字平山
28	東ノ保遺跡	集落跡	平安	小原字東ノ保	97	泉林遺跡	縄文		市川字泉林
29	唐ノ宮遺跡	散布地	古墳/中世	三ノ宮字唐ノ宮	98	市川西遺跡	散布地	縄文	市川字植田
30	三ノ宮聖木遺跡	散布地	平安	三ノ宮聖木	99	小塚遺跡	散布地	平安	飯ノ字小塚
31	上ノ宮八王子遺跡	散布地	平安	上ノ宮八王子	100	大工北遺跡	散布地	縄文/古墳/平安	大ノ字日野
32	上ノ宮遺跡	散布地	古墳/平安/中世	小原東ノ上ノ宮	101	飯沼遺跡	集落跡	縄文/平安/中世	飯ノ字飯沼
33	三ノ宮遺跡	集落跡	平安/中世	三ノ宮字三ノ宮	102	大工南遺跡	散布地	縄文	大ノ字久保
34	屋敷遺跡	城跡跡	中世	三ノ宮字屋敷	103	丹波遺跡	散布地	平安	大ノ字丹波
35	聖木遺跡	散布地	平安	上ノ宮聖木	104	江曾遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	江ノ字江曾
36	林田遺跡	集落跡	縄文/平安	小原西ノ林田	105	宮ノ上塚	古墳	近世	上ノ字宮ノ上
37	寺ノ下遺跡	散布地	縄文	小原西ノ寺ノ下	106	長谷寺古墳	古墳	古墳	上ノ字長谷
38	柳ノ原	城跡跡	近世	方ノ字正月林	107	足原田遺跡	集落跡	縄文/平安/中世	方ノ字足原
39	日下塚岡前遺跡	散布地	古墳	上神内字水上	108	岡ノ前遺跡	散布地	奈良	方ノ字岡ノ前
40	平塚遺跡	散布地	平安	上神内字平塚	109	間之田内遺跡	散布地	古墳/平安	正徳寺字間之田
41	平塚古墳	古墳	古墳	上神内字平塚	110	大神前遺跡	散布地	縄文/平安/中世	正徳寺字大神前
42	塚原遺跡	散布地	古墳/中世	上神内字塚原	111	間之田東遺跡	散布地	平安	正徳寺字間之田
43	塚原南古墳	古墳	古墳	上神内字塚原	112	宮ノ西遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字宮ノ西
44	松原東遺跡	散布地	中世	上神内字松原	113	前吹内堤防跡(その跡)	堤防・近世/近現代		
45	松原東遺跡	城跡跡	中世	上神内字宮ノ前	114	前田遺跡	散布地	平安	下神内字前田
46	坂田遺跡	散布地	平安/中世	三ノ宮字坂田	115	村ノ木遺跡	集落跡	古墳	下神内字村ノ木
47	大塚遺跡	散布地	平安/中世	三ノ宮字大塚	116	宗高北遺跡	散布地	平安	下石森字宗高
48	野沢氏神社	その他	中世/近世	三ノ宮字野沢	117	野沢遺跡	散布地	縄文/平安/中世	下石森字野沢
49	古瀬遺跡	散布地	平安	三ノ宮字古瀬	118	宮ノ前遺跡	散布地	平安	下石森字宮ノ前
50	野町東遺跡	散布地	縄文	三ノ宮字野町東	119	上ノ木遺跡	散布地	奈良/平安/中世	下石森字上ノ木
51	短瀬遺跡	散布地	古墳	三ノ宮字短瀬	120	山ノ木遺跡	散布地	古墳/平安	下石森字山ノ木
52	三ノ宮古墳	古墳	古墳	三ノ宮字三ノ宮	121	石ノ森南遺跡	縄文/平安		下石森字南
53	東ノ原古墳遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	東ノ原字東ノ原	122	野ノ内遺跡	集落跡	弥生/平安	下石森字野ノ内
54	高ノ台古墳遺跡	城跡跡	中世	東ノ原字高ノ台	123	大野寺遺跡	城跡跡	中世	大野寺字三十六
55	上ノ原遺跡	散布地	縄文	上ノ原字上ノ原	124	高瀬遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	大野寺字高瀬
56	鹿ノ原久保遺跡	散布地	古墳	鹿ノ原字久保	125	大神前北遺跡	散布地	平安	大野寺字大神前
57	坂ノ原遺跡	散布地	古墳	鹿ノ原字坂ノ原	126	宗高西遺跡	散布地	古墳	下石森字宗高
58	宮田遺跡	集落跡	縄文	東ノ宮田	127	大神前東遺跡	散布地	縄文/平安	大野寺字大神前
59	空野遺跡	散布地	縄文/平安	東ノ空野	128	宗高南遺跡	散布地	弥生/古墳	下石森字宗高
60	須田遺跡	散布地	縄文	東ノ須田	129	宗高東遺跡	散布地	縄文	下石森字宗高
61	堤ノ原遺跡	散布地	平安	西ノ字堤ノ原	130	吉林遺跡	散布地	古墳/平安	下石森字吉林
62	切畑北遺跡	その他	中世/近世	東ノ切畑	131	上ノ宮遺跡	散布地	古墳/平安	中ノ字上ノ宮
63	切畑西遺跡	散布地	平安	東ノ切畑	132	大林北遺跡	散布地	縄文/弥生/古墳/平安/中世	上ノ原字大林
64	切畑東遺跡	散布地	平安	東ノ切畑	133	八ツ塚遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字八ツ塚
65	切畑南遺跡	散布地	縄文/平安	東ノ切畑	134	八幡寺遺跡	散布地	平安	正徳寺字八幡寺
66	藤ノ木道下遺跡	散布地	縄文	東ノ藤ノ木道下					
67	久保遺跡	散布地	平安	東ノ久保					
68	上野氏神社跡	城跡跡	近世	東ノ上野					
69	久保田遺跡	散布地	縄文	東ノ久保田					

宮ノ前(七日子)遺跡(4)は昭和二十年代初に野沢昌康氏、上野晴朗氏、古屋善博氏らによって調査が行われ、縄文時代の遺構は石野坊が合計で4基検出された。遺物は土偶や縄文時代中期の井戸尻式期から曾利式期前半の土器と縄文時代後期後半から晩期の打製石斧が出土している。平成5年度の調査では、五領ヶ台1式期の土器と土偶3点が出土している。土偶は諸磯式期、五領ヶ台期、曾利式期と考えられる。また平成10年の調査では中期後半の曾利Ⅲ～Ⅳ式のまとまった土器が出土している。天神崎南遺跡(9)は曾利Ⅰ式期の水煙文把手土器が出土した。奈良・平安時代になっても大規模な集落が営まれる。これは現河床より高く、洪水の影響を受けにくい安定した地形が要因となっている。日下部遺跡(22)は昭和24年第1次調査、昭和25年に第2次調査、昭和32年に第3・4次調査、昭和48年に第5次調査、平成24年に第6次調査が行われた。遺構は1・2次調査で住居跡20軒と倉庫跡1棟、「王」「真」「南」「田」「内」「鬻」「丸」「八丸」などの墨書土器が出土している。3・4次調査で住居跡9軒が検出され、「大田」「王」「瀬井」「玉」「文」などの墨書土器が出土している。第6次調査では住居跡6軒、掘立柱建物跡3棟などが検出された。遺物は9世紀後半～11世紀代に属する土器が出土している。遺跡の北に位置する宮ノ前(七日子)遺跡を含めた地域が加美郷の中心的な集落の可能性がある。十王堂遺跡(1)は平成29～30年に今回の調査区の南に位置する地点でも調査が行われた。縄文時代の諸磯式、堀之内式の土器と9世紀代の竪穴住居2軒、掘立柱建物跡1棟が検出された。また、住居のカマド内の土壌から炭化米が検出された。阿勢陀堂遺跡(3)は平成29年に行われた調査では竪穴住居跡1軒、柱状高台皿、高台坪、青磁片が出土した。カマド内土壌の選別によってイネ・オオムギ・コムギ他各種の雑穀類が多数検出された。

⑤-1 平野留置に位置する低い方の扇状地には高畑遺跡(JA フルーツ山梨県南岸沿線一共遊学調査地点)(124)が位置する。笹刈川と重川の合流地点にあたり標高303mに立地する複合遺跡である。縄文時代には中期前半～末まで継続した大規模な集落で、土器や土偶が多く出土した。平安時代の集落は大野郷の中核的な一部と考えられ、中世では井戸などの戦国時代の屋敷地の一部が明らかとなった。中世・近世になると山梨藩に秩父往還、平野留置に青梅街道など多くの道筋が通り山梨市は陸上交通の重要な地域であった。また、定期市や宿問の地名が残っており交易・流通の拠点でもあった。付近を流れる三河川は水害を引き起こすが、開発には欠かせない水の供給源であり鄉村発達の基盤となる。連方屋敷(34)は鎌倉時代もしくは南北朝時代に始まる豪族屋敷である。現存する館は一邊100m程度の不整形で北と西に堀が残っている。土塁は屋敷地南側で一部消滅している。平成6年の調査では集石遺構が検出され、内耳土器や常滑甕が出土している。安田義定館(23)は文獻から平安時代末から鎌倉時代初期の館跡と推定される。調査区の東にある雲光寺は義定の開基で義定一族の墓と伝えられる五輪塔がある。

⑥ 谷底平野に位置する村江曾原遺跡(104)は平安時代の集落跡である。

## 第3章 調査の方法と層序

### 第1節 調査の方法

調査区は南北の長さが約180mに及ぶため、1区～6区に区分けし、さらに掘削土置場を確保する必要がある調査区は、反転調査を行うため2つに分割した。

重機による表土掘削後、人力による遺物包含層掘削および遺構の検出作業を行った。

遺構番号は調査を行った順に付した。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを報告書まで用いることとした。

遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にボール撮影で行った。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてボール写真撮影を行い、「PhotoScan Professional」を用いてオルソモザイク写真を作成した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。小片については、遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土遺物については地点ごと一括して取り上げた。遺構写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ(NikonD7100)を使用した。調査終了時には山梨県東農務事務所と山梨市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元を行い、遺物実測は手描きで行った。デジタルトレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業には adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

## 第2節 基本層序 (第4～10区)

調査区ごとにサブトレンチを設定し、地山を掘り込む深さまで掘削を行い下層の確認を行った。1区から3区は竹根や樹木の根による影響が大きい。層序は地山の礫層まで浅い1～3区と礫層まで深い4～6区に区分できる。礫層までの深さは一定ではなく起伏がある。

基本層序は、遺構埋土は1～3区は褐色土、4～6区はにぶい黄褐色土である。遺物包含層は無い。I層は表土である。II層は1～3区の遺構埋土である褐色土、III層は4～6区の遺構埋土であるにぶい黄褐色土、IV層は地山直上の黄褐色土、V層は地山である礫層とした。ただし、各地点とも礫層の影響や攪乱の影響を受けているため共通する堆積は少ない。

I 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒1%以下を含む。表土。

II 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒を3%含む。

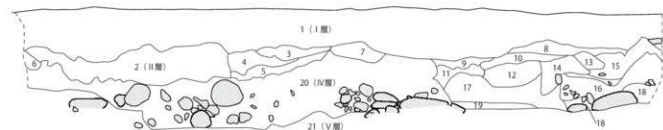
III にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。雲母・白色粒を1%含む。

IV 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/4) を3%含む。

V 地山 礫層

392.8m

A



### 1-1区地層

1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。

白色粒1%以下を含む [I層]

2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

褐色土 (10YR4/6) を10%含む [II層]

3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。

1mm礫1%含む。

4 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。

雲母・白色粒を1%含む。

5 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。

白色粒を1%含む。

6 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。

黒色粒を5%含む。

7 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。

暗褐色土 (10YR3/4) を30%含む。

8 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。

粘土を3%含む。

9 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。

褐色土 (10YR4/4) をマール状に40%含む。

10 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。

黒色粒・白色粒を1%含む。

11 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

黄褐色土 (10YR5/6) を20%含む。

12 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

黄褐色土 (10YR5/6) を5%含む。

13 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

粘土を5%含む。

14 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。

粘土を5%含む。

15 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

粘土を10%含む。

16 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

粘土を20%含む。

17 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

黄褐色土を1%含む。

18 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

黒色粒を5%含む。

19 暗褐色土 (10YR2/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

暗褐色土 (10YR3/3) を10%含む。

20 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

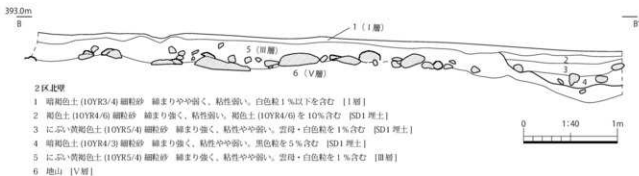
褐色土 (10YR4/4) を3%含む [IV層]

21 地山 [V層]

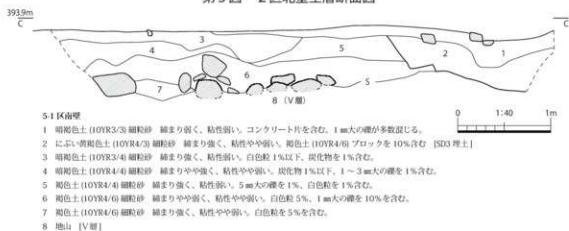
0 1:40 1m

第4図 1-1区北壁土層断面図





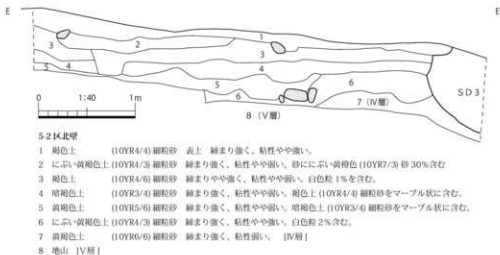
第5図 2区北壁土層断面図



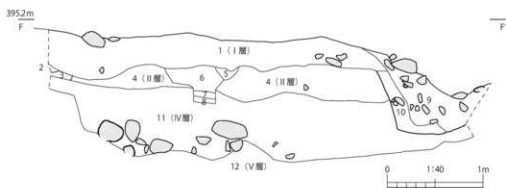
第6図 5-1区南壁土層断面図



第7図 5-1区北壁土層断面図



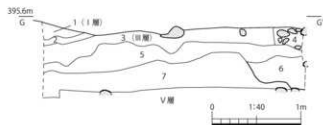
第8図 5-2区北壁土層断面図



#### 6-1K北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。立ち上がりから1m付近まで褐色土(10YR4/6)が30%混じる。白色粒を5%含む。[I層]
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。暗褐色土(10YR3/3)が5%混じる。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。暗褐色土(10YR3/3)が10%混じる。白色粒を3%含む。
- 4 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。1m厚を1%、炭化物を1%以下含む。[II層]
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。褐色土(7.5YR4/4)を5%、褐色土(10YR4/4)を10%含む。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。暗褐色土(10YR3/3)が30%混じる。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。褐色土(10YR4/4)が5%混じる。
- 8 褐色土 (7.5YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。暗褐色土(10YR3/3)が10%混じる。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。礫を多数含む。白色粒を5%、黒色・黄色粒を1%以下含む。[SD3埋土]
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土(10YR4/4)を10%含む。[SD3埋土]
- 11 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒を5%含む。
- 12 地山 [V層]

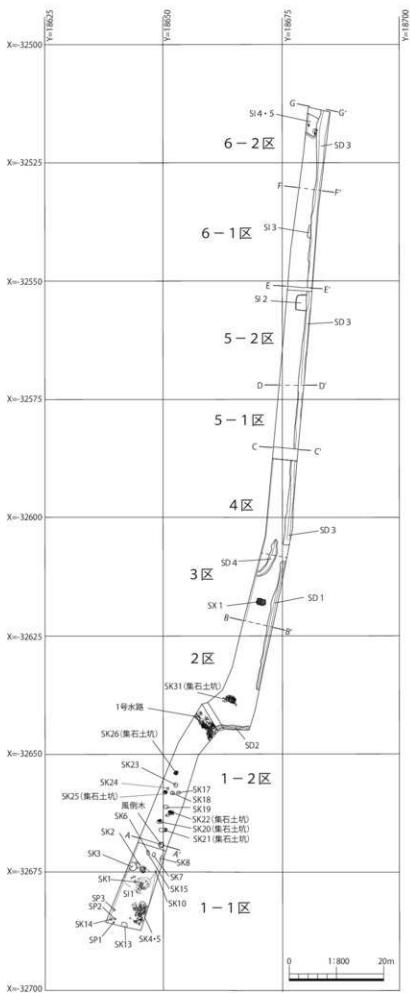
第9図 6-1区北壁土層断面図



#### 6-2K北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。黄褐色粒を5%含む。[I層]
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。地土を45%、炭化物を5%を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。炭化物を1%含む。[II層]
- 4 黒褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや強い。石・礫を多数含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒1%含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。炭化物を1%、5層のブロックを3%含む。[SD3埋土]
- 7 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。3層を10%、炭化物を1%含む。

第10図 6-2区北壁土層断面図



第11図 遺構全体図・基本層序位置図

## 第4章 調査の成果

今回の調査では住居址5軒、溝4条、土坑22基、ピット3基、水路跡1条、SX（その他の遺構）1基が検出された。

### S I 1（第11・12・21・60、図版4・12）

〔位置・重複〕1区に位置している。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕カマドの痕跡と硬化面のみを検出した。平面形と規模は不明である。

〔検出状況・埋土〕後世の削平や竹の根の影響が著しい。カマドは袖状に白色粘土のブロックと焼土ブロックが検出された。カマドの軸の方向や硬化面の位置から、住居址の北東側に構築されていたと推測される。

〔出土遺物〕1は羽釜で直線的に立ち上がり、口縁端部はやや内側に傾く。罫は口縁端部下に付く。口縁端部から罫の付け根まで1.2cm。罫は外側で肥厚する。内外面共にナデ調整。2は1と同一個体か。

〔時期〕出土遺物から平安時代に属すると思われる。

### S I 2（第11・18・22・23・60、図版4・12）

〔位置・重複〕5-2区に位置している。東側は溝SD3で切られている。

〔形状・規模〕平面形は方形で、検出された規模は東西2.3m、南北3.4m、深さは0.3mを測る。主軸の方位はN-4°-Eを指している。断面形状は方形を呈している。周溝が検出された。

〔検出状況・埋土〕Ⅲ層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は4層に分層でき、1層は暗褐色土である。2層には炭化物・焼土を含む。3層は褐色土のブロックを含む。床面。4層は掘り方である。

〔出土遺物〕3-10は土師器の環である。3の底部は全面をヘラミガキ調整、見込部に放射状の暗文。体部外面に横位のヘラミガキ調整、体部下半はヘラケズリ調整が施される。口縁部に煤が付着する。4の内面は見込部と体部に放射状の暗文。外面は体部下半はヘラケズリ調整が施される。5の底部は回転糸切後外周をヘラナデ。体部下半に手持ちヘラケズリ調整を施す。9は高台環で底部はケズリ調整を施す。11-16は土師器の甕である。11の口縁部は緩やかに外反する。内・外面共にヘラナデ調整を施す。12の口縁部は大きく外反する。内面は横位のハケメ調整が施される。16の外面は縦位のハケメ調整、内面は上半にナデ調整、下半に横位のハケメ調整が施される。17は須恵器の甕の体部で、外面にタタキ調整を施し、自然釉がかかる。内面は当て具痕が認められる。

〔時期〕出土遺物から8世紀後半に属すると思われる。

### S I 3（第11・19・24・61、図版5・13）

〔位置・重複〕6-1区に位置している。東側はSD3に切られている。

〔形状・規模〕形状は方形で、検出された規模は東西0.7m、南北1.1m、深さは0.3mを測る。主軸の方位はN-16°-Eを指している。断面形状は方形を呈している。周溝が検出された。

〔検出状況・埋土〕Ⅲ層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は3層に分層でき、1層は暗褐色土で遺物を含む。2層はにぶい黄褐色土で3層は明黄褐色土で地山の黄褐色土を含む。

〔出土遺物〕18は須恵器の環蓋で天井部に回転ヘラケズリ調整を施す。

〔時期〕出土遺物から9世紀か。

### S I 4（第11・20・25・26、図版5・6）

〔位置・重複〕6-2区に位置している。S I 5の床面の下層からカマドの痕跡が検出されたことから、S I 5に切られている。

〔形状・規模〕焼土とカマドの袖とみられる粘土を検出したが、建物の掘方の形状は確認できなかった。

〔検出状況・埋土〕S I 5の床面下から焼土とカマドの袖と思われる粘土が検出された。

〔出土遺物〕S I 5に切られており、S I 4として取り上げた遺物はない。

〔時期〕S I 5との重複関係から平安時代に属すると思われる。

S I 5 (第 11・20・25～27・61、図版 5・6・13)

[位置・重複] 6～2区に位置している。S I 4を切っており、東はS D 3で切られている。

[形状・規模] 西側は調査区外に延びているため平面形の形状は不明である。検出された規模は東西2.6m、南北4.2m、深さは遺構検出面から0.3mを測る。カマドの主軸の方位はN-69°-Wを指している。カマドは袖石と思われる河原石が2点出土した。南側の壁際で周溝が検出された。

[検出状況・埋土] III層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は2層に分層でき、1層はぶい黄褐色土、2層は暗褐色土である。

[出土遺物] 19は土師器の環の完形品である。大形で身が深く底部は弧状を呈している。底部からやや内湾しながら外に開く。口縁端部は丸く収める。内・外面共にミガキ調整、底部はケズリ調整が施される。21・23は土師器の蓋である。21は内面にらせん状の暗文が施される。

[時期] 出土した遺物から8世紀前半に属すると思われる。

S D 1 (第 5・11・14・15・31・61、図版 6・13)

[位置・重複] 2区に位置する。

[形状・規模] 南北に走り、長さは39.0m、幅1.2m、深さは0.3～0.4mを測る。主軸の方位はN-12°-Eを指している。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 調査区東側の現状で残っている石積みに沿って検出された。溝の東側の立上りは調査区外に延びており、検出できなかった。

[出土遺物] 28は土器の内耳鍋の口縁部であるが、耳は欠損している。体部がやや外に開く器形とみられる。中世後半か。29・30は染付碗である。

[時期] 埋没時期は近世以降であるが、内耳鍋も出土しており溝の開削時期が中世である可能性はある。

S D 2 (第 11・14・31・61、図版 6・13)

[位置・重複] 2区に位置する。1号水路に切られている。

[形状・規模] 東西に走り、長さは8.0m、幅2.0m、深さは0.4mを測る。

[検出状況・埋土] 西側は1号水路に切れ、東側は調査区外に延びている。

[出土遺物] 31は土師器の裏で、口縁部は短く外反し、端部に面を持つ。内面は横位のハケメ、外面はヘラナデ調整を施す。平安時代に属すると思われる。32は銭で「寛永通宝」か。

[時期] 埋没時期は近世以降である。

S D 3 (第 6～11・16～20・28～30・61、図版 7)

[位置・重複] 4～6区に位置する。調査区外の井尻氏屋敷跡の土塁に隣接している。

[形状・規模] 南北に走り、長さは南北98.0m、幅は最大で1.5m、深さは0.6～0.8mを測る。

[検出状況・埋土] 溝の東側の立ち上がりは調査区外に延びているとみられ検出できなかった。埋土はコンクリート片を含む流入土や攪乱土で覆われていた地点(第6・7図)もあったが、4区で確認した土層断面(第30図)では4層に分層できた。1層は黒褐色土、2・3・4層は褐色土で2層は黄褐色土を多く含む。4層は礫を多く含む。

[出土遺物] 33は染付碗である。

[時期] 磁器が出土しており、埋没時期は近世以降である。

S D 4 (第 11・15・61、図版 8・13)

[位置・重複] 3・4区に位置する。

[形状・規模] 溝の北端から南へ2.8mの地点で南西方向に向きを変え、さらに5mの地点で西の調査区外に延びている。掘り方の断面形はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は3層に分層でき1層は褐色土、2層・3層は暗褐色土で3層は地山の礫を多量に含む。

[出土遺物] 34は土師器の甕で底部に木葉痕。35は土師器の環の底部である。平安時代に属すると思われる。36・37はすり鉢である。36は瓦質土器のすり鉢で11条1単位のすり目、37は土器のすり鉢で見込み部に4条1単位のすり目が認められる。中世に属すると思われる。

[時期] 出土遺物から最終的な埋没時期は中世である。

#### 1号水路(第11・14・32、図版8)

[位置・重複] 1-2区に位置する。

[形状・規模] 検出できた規模は長さ4.8m、幅は0.5m、深さは0.3m~0.4mを測る。主軸の方位はN-42°-Wを指している。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。西側は調査区外に伸び、東側は土塁まで延びている。埋土は3層に分層でき、1層は暗褐色土である。3層下部に粗粒砂の堆積が認められることから水が流れていた状況が推測される。また、南北には東西方向に走る石積みが2段ずつ積まれており、何れも溝側に面を作る。断面形状はすり鉢状である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 近・現代

#### SX1(第11・15・33、図版11)

[位置・重複] 3区に位置する。

[形状・規模] 平面形は長楕円形である。

[検出状況・埋土] 周囲を石で囲んでおり、底は石を敷き詰めてコンクリートで固めている。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 近・現代

#### SK1(第11・12・34・35・62、図版9・13)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長軸は3.2m、短軸は2.7m、深さは0.8mを測る。断面形状はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] II層褐色土で検出した。上面に配石が検出された。中央の石の周りを大小の石が囲んでいる。埋土は5層に分層できる。計測位置によって埋土の堆積土は異なるが、基本的には1層暗褐色土で、2層以下は地山の黄褐色土や礫の含有量によって分層できる。

[出土遺物] 38~40はかわらけ、41は砥石である。

[時期] 出土した遺物から中世後半に属すると思われる。

#### SK2(第11・12・36)

[位置・重複] 1-1区に位置している。SK3を切っている。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸1.9m、短軸1.7m、深さは0.1mを測る。断面形状は方形である。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。II層褐色土で検出した。埋土は褐色土で地山の黄褐色ブロックを含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

#### SK3(第11・12・36、図版9)

[位置・重複] 1-1区に位置している。SK2に切られている。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸1.2m、短軸0.7m、深さは0.4mを測る。断面形状は方形である。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。埋土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色土、2層・3層は暗褐色土だが2層に比べ3層の方が白色粒の含有量が少ない。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 4 (第 11・12・37・38、図版9)

[位置・重複] 1-1区に位置している。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈している。検出された規模は長軸 1.6m、短軸 1.5 m、深さは 0.4m を測る。

[検出状況・埋土] にぶい黄褐色土で検出した。1層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 5 (第 11・12・37～39、図版9・14)

[形状・規模] 平面形は竹根や樹木の攪乱により不明である。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。表土直下で礫層が検出され礫間に堆積したにぶい褐色土を埋土の1層と判断した。

[出土遺物] 42は土師器の坏である。43は土器の内耳鍋である。底面は平らで器厚 0.5cm と薄い。外面に煤が付着する。44はかわらけである。

[時期] 出土遺物から中世と考えたい。

S K 6 (第 11・12・40、図版9)

[位置・重複] 1-1区に位置している。S K 15を切っている。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈している。規模は径 0.5m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] II層褐色土で検出した。埋土は3層に分層でき、1層は暗褐色土、2層は褐色土で明黄褐色土を 10% 含む。3層は褐色土で2層より多く地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 7 (第 11・12・41・図版9)

[位置・重複] 1-1区に位置している。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.6m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状である。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は2層に分層でき、上層は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。下層は明黄褐色土で暗褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 8 (第 11・12・42)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は東側が切られているため不明である。検出された規模は、長軸 1.3m、短軸 0.3m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。埋土は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 9 欠番

S K 10 (第 11・12・43)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は東側が切られているため不明である。検出された規模は、長軸 0.5m、短軸 0.3m、深さ 0.3m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。埋土は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 11 欠番

S K 12 欠番

S K 13 (第 11・12・44)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は南側が調査区外に延びているため不明である。検出された規模は、長軸 1.3m、短軸 1.0m、深さ 0.1m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は暗褐色土である。

[出土遺物] 45 は銭で「寛永通宝」か。

[時期] 時期は不明である。

S K 14 (第 11・12・45)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形である。検出された規模は、長軸 0.6m、短軸 0.5m、深さ 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 3 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は暗褐色土、3 層は黄褐色土である。

[出土遺物] 46 は銭だが摩耗して文字は判読できない。

[時期] 時期は不明である。

S K 15 (第 11・12・40)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。S K 6 に切られている。

[形状・規模] 平面形は北側が切られているため不明である。検出された規模は長軸 0.6m、短軸 0.5m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状である。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 1 層に分層でき、上層は暗褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 16 欠番

S K 17 (第 11・13・46)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は、長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 18 (第 11・13・47、図版 10)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 5 層に分層でき、1 層は暗褐色土である。2 層は褐色土、3・4 層には地山の黄褐色ブロックが含まれる。5 層はにぶい黄褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。



[時期] 時期は不明である。

S K 19 (第 11・13・48、図版 10)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 1.2m、短軸 0.9m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 20 (集石土坑) (第 11・13・49、図版 10)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 1.4m、短軸 0.8m、深さは 0.7m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑上面で集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 21 (集石土坑) (第 11・13・50)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 1.8m、短軸 0.7m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑の東側で集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 22 (集石土坑) (第 11・13・51、図版 10)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 1.2m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 全面に集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 23 (第 11・13・52、図版 10)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 24 (第 11・13・53)

[位置・重複] 1-1区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 0.6m、短軸 0.6m、深さ 0.1m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S K 25 (集石土坑) (第 11・13・54、図版 11)**

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S K 26 (集石土坑) (第 11・13・55、図版 11)**

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑全面に集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S K 27～S K 30 欠番**

**S K 31 (集石土坑) (第 11・14・56、図版 11)**

[位置・重複] 2 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 2.3m、短軸 1.3m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑全面に集石が検出された。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S P 1 (第 11・12・57、図版 11)**

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 0.3m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 3 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は暗褐色土、3 層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S P 2 (第 11・12・58)**

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 4 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は褐色土、3 層は暗褐色土、4 層は明黄褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

**S P 3 (第 11・12・59)**

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さは 0.3m を測る。断面形状は

すり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は4層に分層でき、1層にはぶい黄褐色土、2・3層は暗褐色土で2層目には黄褐色土が20%含まれる。4層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

#### 遺構外出土遺物 (第62～66図、図版14・15)

遺構外から縄文土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・羽釜、中世の土師質土器の皿・土器の内耳鍋・鉢・すり鉢、近世の陶磁器などが出土した。

[1-1区] 47はかわらけ、48は陶器の皿、49は土器の内耳鍋である。47はロクロナデ調整で、底部は回転系切りし、外周をヘラケズリする。50は石製品で石板である。

[1-2区] 51は灰軸陶器の段皿である。高台の断面形は三角形状である。ロクロ調整が施され、回転系切痕が残る。口縁端部および内面に施軸される。52は陶器の碗の底部で内面に軸葉がかかる。瀬戸か。53は「聖宋元宝」の篆書の北宋銭(初鑄1101年)である。

[2区] 54は土器の鉢である。内面は横位のヘラナデ調整を施す。55・56は須恵器の甕である。55は体部外面にタタキ調整を施す。内面に自然軸が残る。56は体部外面をタタキ調整し、内面に当て具痕を残す。57は須恵器の甕の体部で外面に自然軸とタタキ目。内面は当て具痕が残る。58～60は土師器の坏である。いずれもロクロナデ調整で、底部に回転系切痕が残る。61は瓦質土器のすり鉢で4条1単位の揃り目が認められる。62は染付磁器の碗の底部である。

[4区] 63は土師器の羽釜で、鏝は端部がやや下方に湾曲する。内面は横位のハケメ調整が施される。64は瓦質土器の鉢である。ロクロ調整を施す。

[5-1区] 65は土師器の高台環の底部で、見込部に放射状の暗文、底部は回転ヘラケズリ調整を施す。外面の体部下半は丁寧なケズリ調整が施される。高台の断面は逆台形状に削り出されている。

[5-2区] 66は土師器の甕で内・外面にヘラナデし、底部に木葉痕が残る。67・68は土師器の坏である。67は外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。内面は放射状暗文を施す。底部は回転系切り後ナデ調整を施す。68の底部は回転系切りし、ヘラケズリ調整を施す。69は土師器の甕で、口縁部が大きく外反し、端部に面を作る。70は土師器の甕で、内外面はハケ調整し、底部はヘラケズリを施す。71・72は土師器の蓋である。71は内面に放射状の暗文を施す。72は外面に放射状の暗文が施される。外面に墨書と推測される痕跡が認められるが判読は出来ない。73は須恵器の甕の体部で外面にタタキ目、内面に当て具痕が認められる。74は染付磁器の皿、75は緑軸陶器の碗の底部である。

[6-1区] 76～83は土師器の坏である。76の口縁端部は肥厚する。77は高台環である。内面に放射状の暗文を施し、外面は体部下位にヘラケズリ調整を施す。底部に低い削り出し高台を作る。78は内面に放射状の暗文。外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。79は内面に放射状の暗文。80の口縁端部は肥厚する。見込み部と体部の境にヘラミガキ調整を施す。81はロクロ調整後、底部にヘラケズリ調整、体部内面に放射状の暗文を施す。82は外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。83はロクロ調整を施し、底部は回転系切りである。84～86は土師器の甕である。84の口縁部は大きく外反して開く。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。指頭痕が残る。体部下半に煤が付着する。85の外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。86は外面の体部下半にヘラケズリ調整、底部は木葉痕。外周にヘラケズリ調整を施す。87～89は須恵器の蓋でロクロ調整を施す。88の外面はヘラケズリ調整、内面の口縁部との接合部にかえり状の沈線。89は口縁端部にかえりを作る。8世紀末～9世紀か。90は須恵器の蓋の体部でロクロ調整が施される。91は土師器の甕の底部で器壁は薄い。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。92は須恵器の甕の体部で外面はタタキ、内面に当具

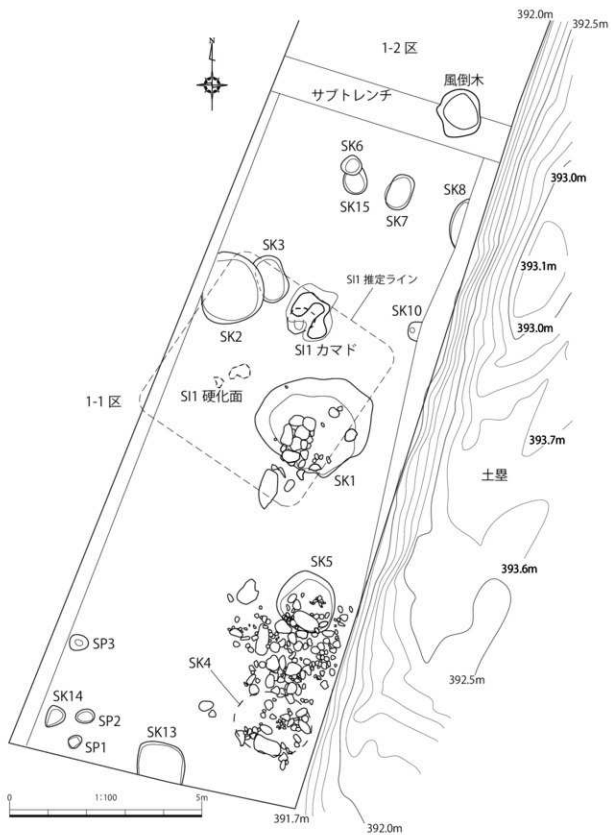
痕（青海波状）が残る。93は陶器の甕でロクロナデ調整が施される。底部はケズリ調整を施す。94は灰釉陶器の壺で内・外面施釉を施す。95は土師器の小形環である。96は瓦質土器のすり鉢で内面にすり目が残る。97・98は染付碗である。

[6-2区] 99は土師器の鉢で、口縁端部に平坦面を作る。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。100・101は土師器の環で、底部は回転糸切りである。100は底部に煤が付着している。102は土師器の壺か。103は土師器の羽釜の口縁部である。銚部は端部がやや下方に下がる。内面は横位のハケメ調整を施す。104は土器の鍋の口縁部である。指頭痕が残る。105は土師器の羽釜の銚部である。銚の長さは約2.5cmである。106は土器の甕の口縁部でロクロナデ調整を施す。体部内面はヘラケズリにより面を作る。外面は黒化している。107は陶器の甕の体部で外面はタタキ調整、内面は黒色化している。108は土器の火消壺の蓋である。109～111は染付磁器で109は鉢、110は碗、111は皿である。112は石版で表面に沈線、擦痕が認められる。

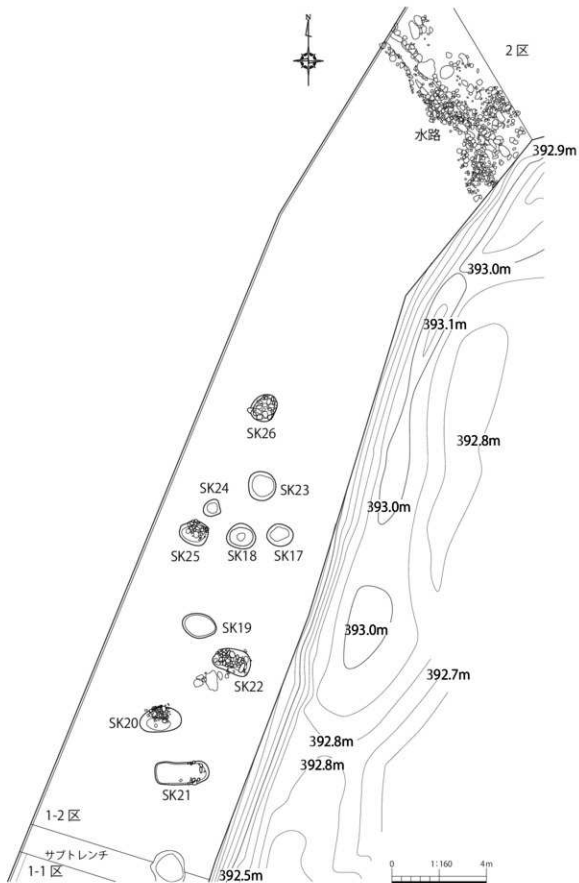
[縄文土器] 113～121は深鉢形土器の破片である。

113は1-1区で出土した。深鉢の口縁部で、口縁端部は外に折り返す。体部は口縁部から斜位の条線を施す。114は2区で出土した。横位の沈線で地文は縄文で一部を磨り消し。五領ケ台式。

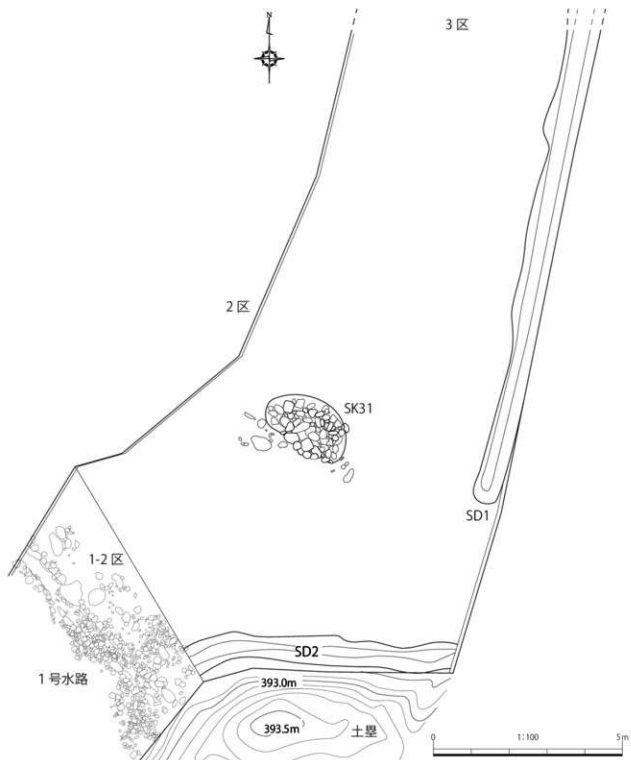
115は5-2区の出土である。太い沈線が施される。曾利式。116～121は6-1区で出土した。116は半裁竹管による押し引き。十三菩提式。6-1区から出土した117は半裁竹管による6条の横位の沈線を斜位の沈線で挟む。五領ケ台式。118の地文は縄文で縦位の沈線を施す。縄文時代中期か。119の地文は縄文。120は「J」状の太い沈線の区画内に縦位の沈線を充填する。121は深鉢の口縁部で口縁端部にキザミ、半裁竹管による横位の押し引きが施される。120・121は五領ケ台式である。



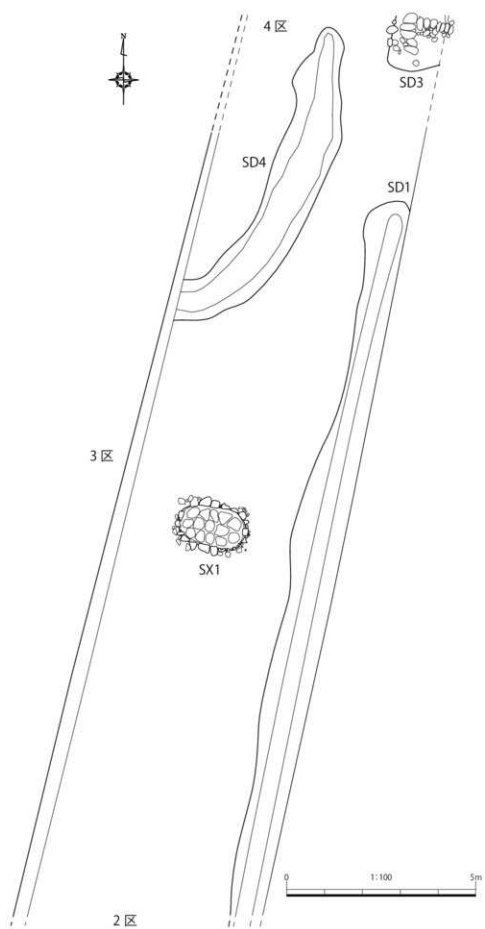
第 12 図 遺構分布図 (1-1 区)



第13図 遺構分布図(1-2区)

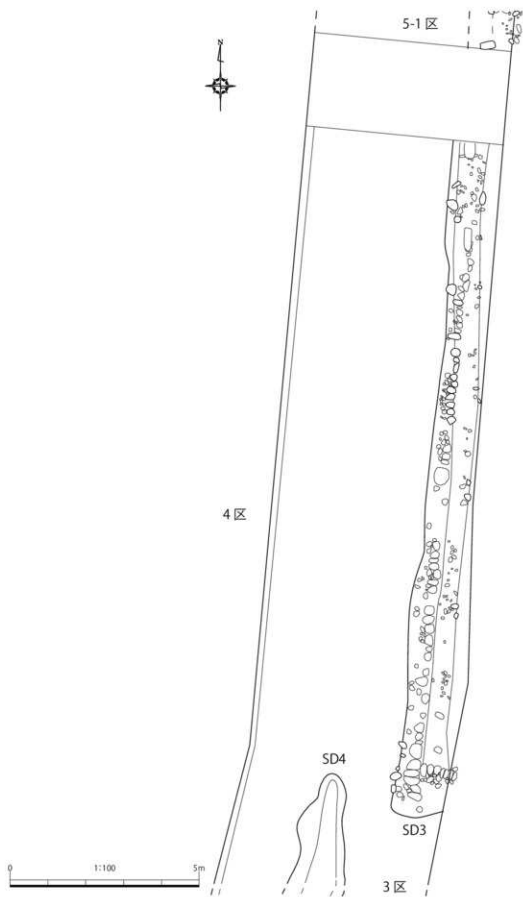


第 14 图 遺構分布图 (2区)

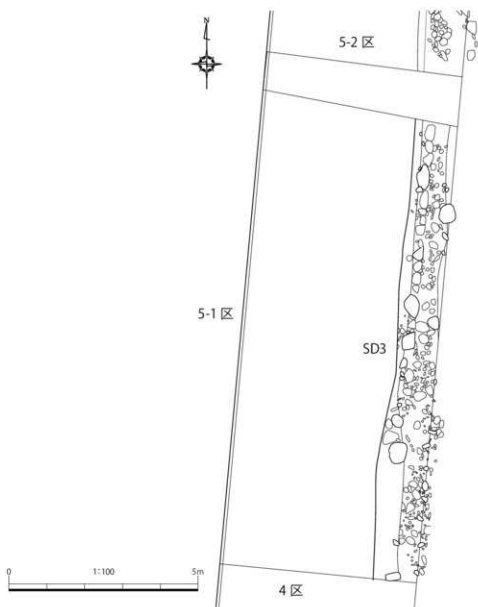


第 15 图 遺構分布図 (3区)

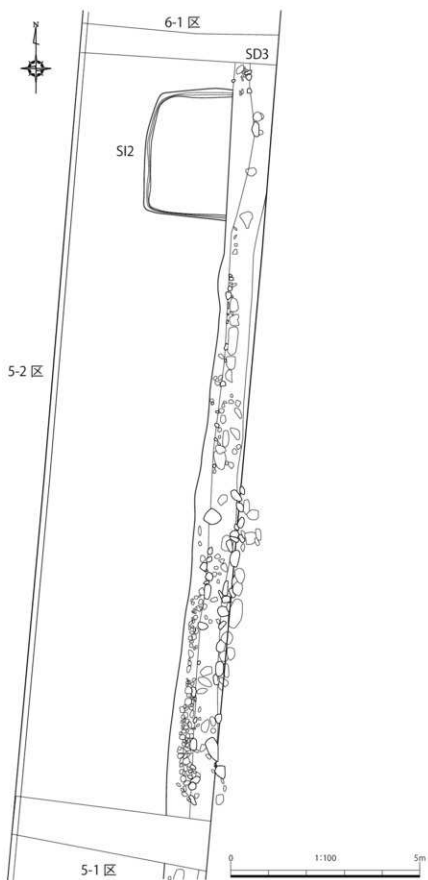




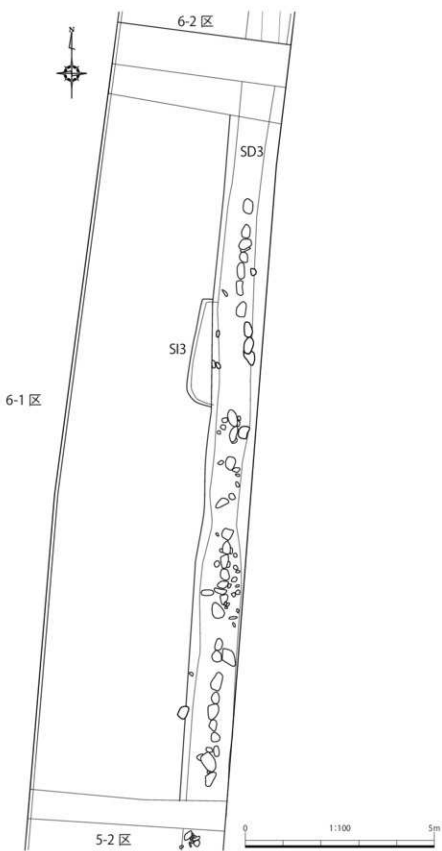
第 16 図 遺構分布図 (4区)



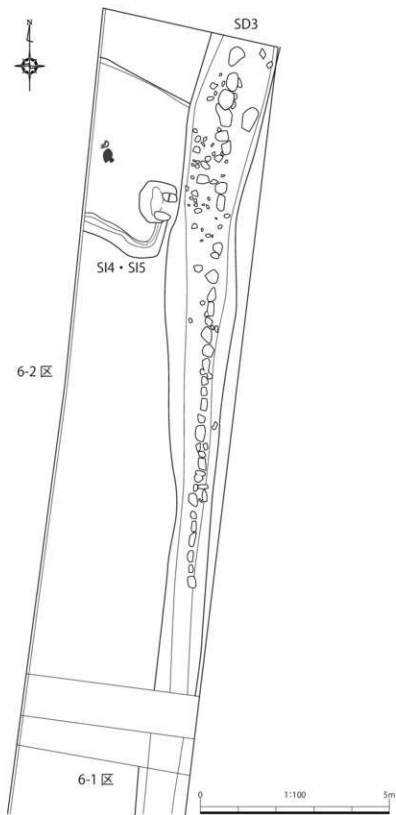
第 17 図 遺構分布図 (5-1 区)



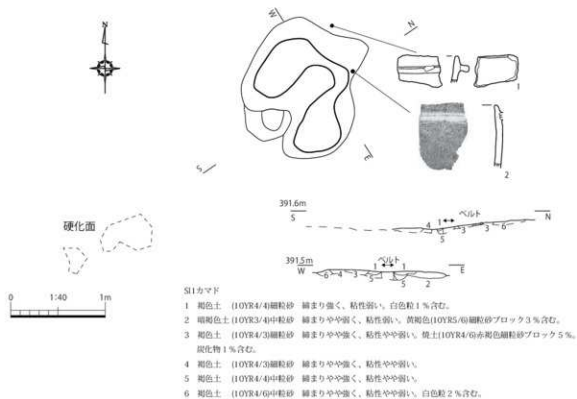
第18図 遺構分布図(5-2区)



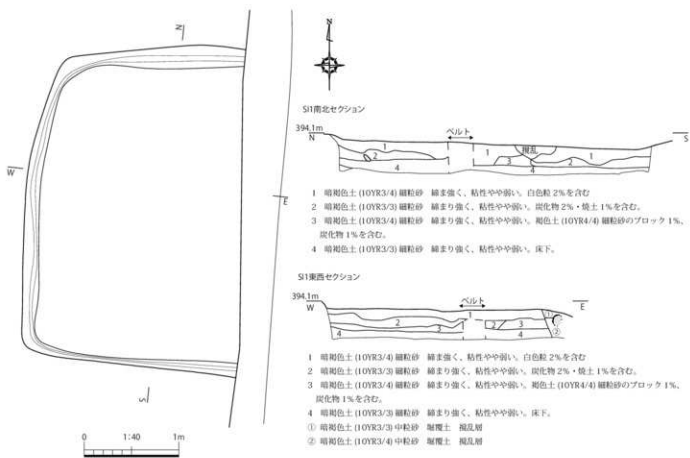
第 19 図 遺構分布図 (6-1 区)



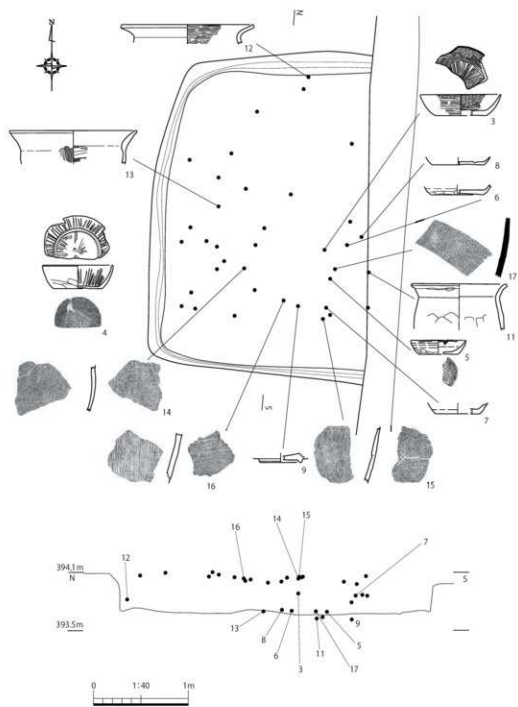
第20図 遺構分布図(6-2区)



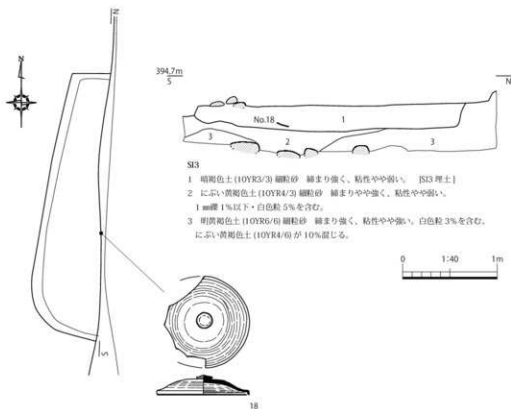
第21図 1号住居址(SI1)



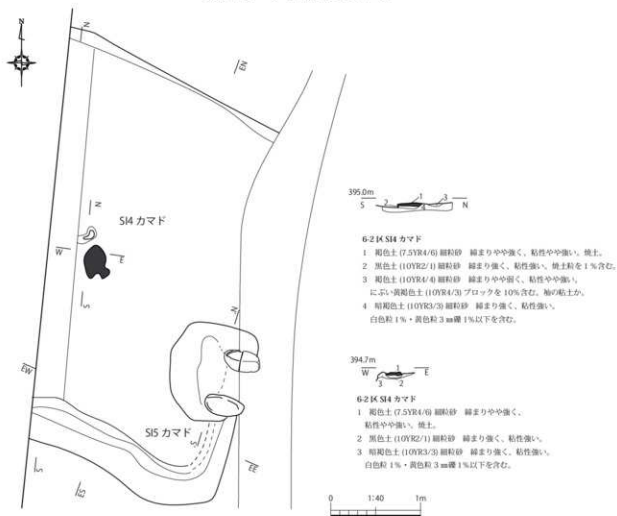
第22図 2号住居址(SI2)



第 23 图 2 号住居址遺物出土地点

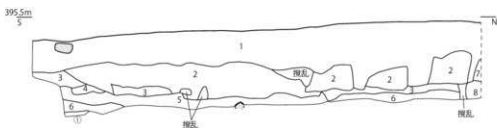


第 24 図 3号住居址 (S13)



第 25 図 4・5号住居址 (S14・5) (1)





6-2 KS5 西壁セクション

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや強い、径5mm礫1%を含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや強い、褐色土 (10YR4/4) 細粒砂ブロックを1%含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 5 に近い黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂に褐色土 (10YR4/6) 細粒砂ブロックを5%含む。締まり強く、粘性やや弱い、炭化物2%を含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂に褐色土 (10YR4/6) 細粒砂ブロックを1%含む。締まり強く、粘性やや弱い。
- ① 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い、腐葉覆土。



6-2 KS5 カマド

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや強い。  
炭土10%・炭化物10%を含む。
- 2 暗褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。  
炭土10%・炭化物5%・白色粒1%を含む。
- 3 に近い黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性強い。  
炭土5%・炭化物1%・礫2%を含む。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。  
炭土3%・炭化物1%を含む。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや強い。  
炭土5%・炭化物1%を含む。  
に近い黄褐色土 (10YR4/3) が5%混じる。
- 6 に近い黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや強い。  
炭化物1%以下を含む。掘削か？

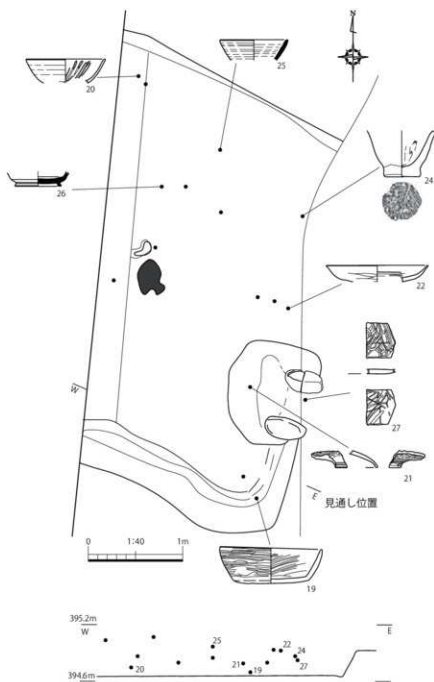
6-2ES5S南北エレベーション



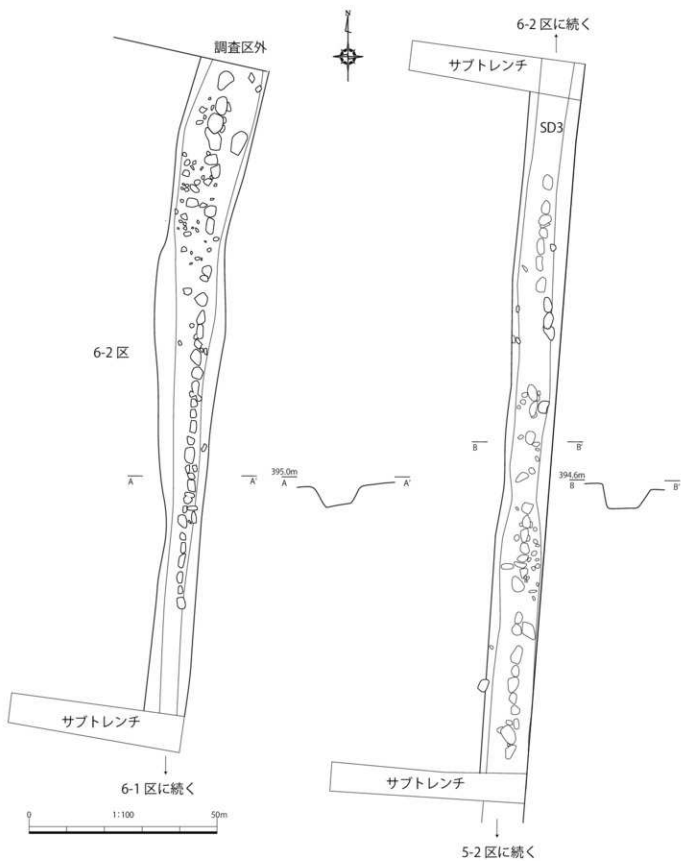
6-2ES5S東西エレベーション



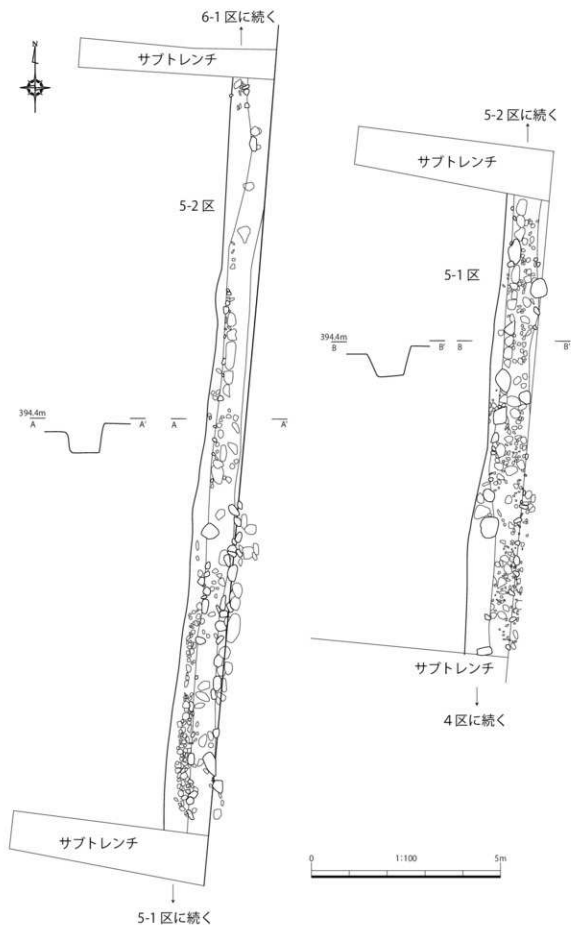
第26図 4・5号住居址 (S14・5) (2)



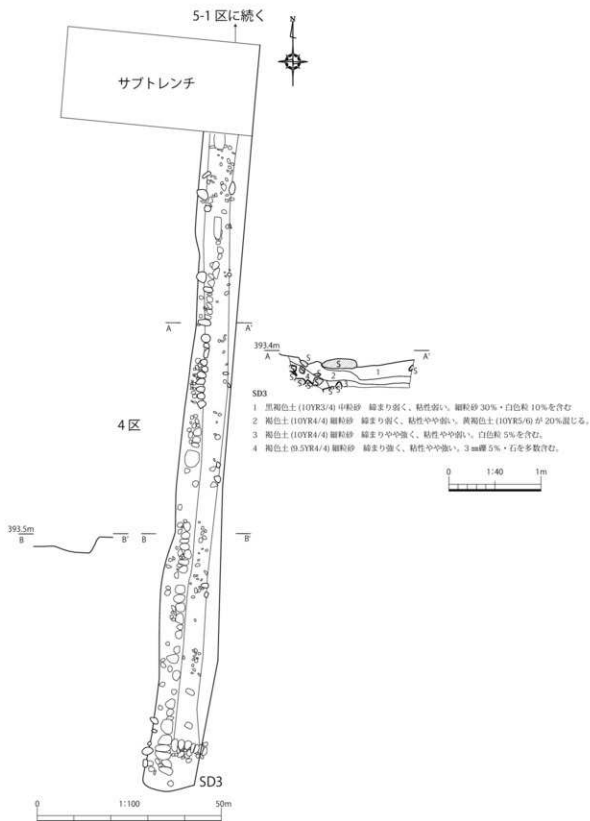
第 27 図 5号住居址遺物出土地点



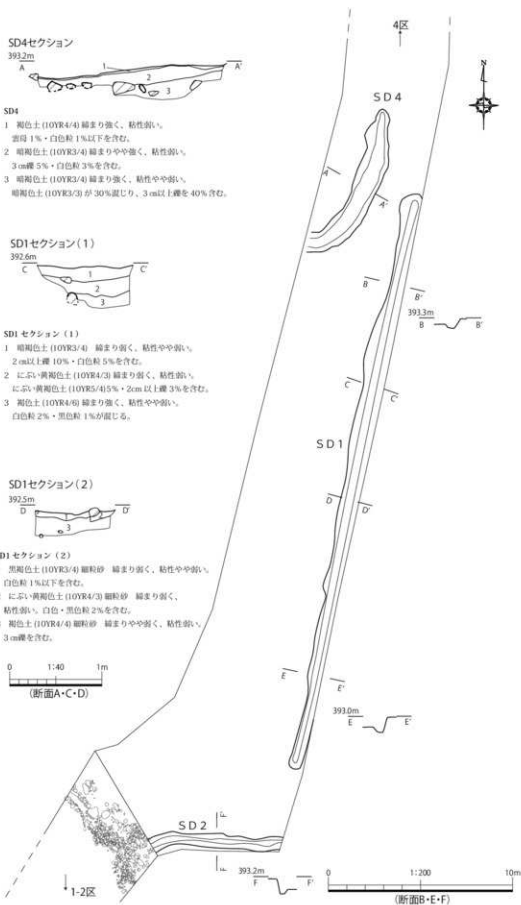
第 28 図 溝状遺構 (SD3) (1)



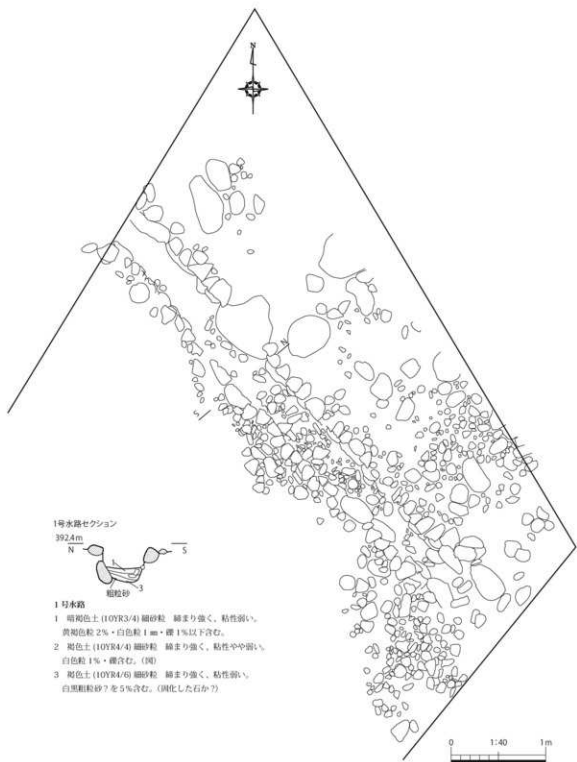
第29図 溝状遺構 (SD3) (2)



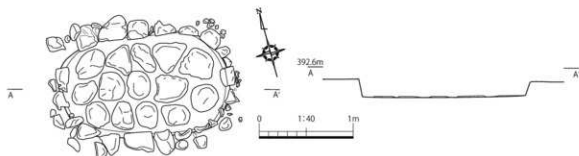
第 30 図 溝状遺構 (SD3) (3)



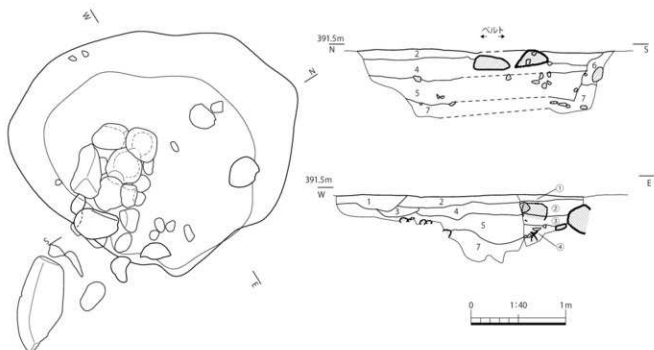
第 31 図 溝状遺構 (SD1・2・4)



第 32 図 1号水路



第 33 図 SX 1

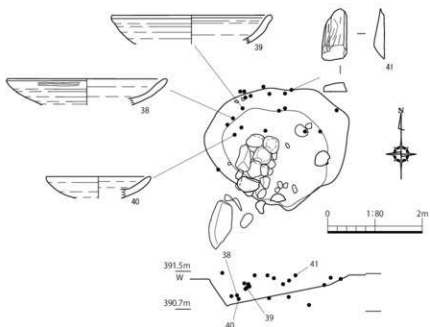


SK1東西ペルト

- 1 黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。  
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) を20%含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm大礫を含む。  
白色粒を1%以下含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。  
白色粒を1%、1mm礫を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。  
白色粒を3%、雲母を1%以下含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。3mm礫を含む。  
明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂を5%含む。
- 6 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。  
褐色土 (10YR4/4) を20%含む。

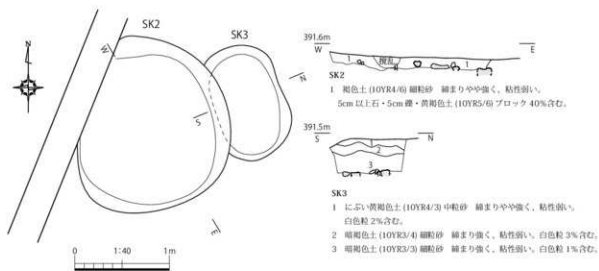
- ① 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫を含む。  
白色粒を1%以下含む。
- ② 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。  
明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂を1%含む。
- ③ 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。  
3mm礫を含む。明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂を5%含む。
- ④ 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。  
白色粒・黄色粒を1%以下含む。

第34図 1号土坑 (SK1)

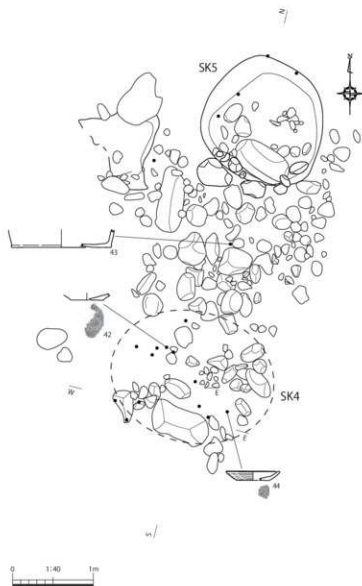


第35図 1号土坑遺物出土地点





第36図 2・3号土坑 (SK2・3)



第37図 4・5号土坑 (SK4・5)

#### 4・5セクション

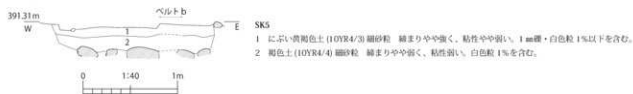


#### SK4・5セクション

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い、1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、白色粒1%を含む。
- 3-a 褐色土 (7.5YR4/4) 細砂粒 締まり弱く、粘性やや弱い、白色粒1%・黒褐色土 (10YR3/2) ブロック3%・黄褐色土 (10YR5/6) 細砂粒40%を含む。
- 3-b 褐色土 (7.5YR4/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性やや弱い、白色粒1%・5mm石・黒色粒1%以下を含む。
- 4 褐色土 (7.5YR4/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性やや弱い、白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、白・黒色粒1%以下を含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、2mm礫含む、白・黒色粒1%以下、石(S)を含む。
- 7 黒褐色土 (7.5YR3/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い、黒土 (10YR2/1)20%・褐色土 (10YR4/4)10%を含む。
- 8 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、黒土 (10YR2/1)5%を含む。
- 9 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い、白色粒1%以下を含む。
- 10 明黄褐色土 (10YR6/6) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い、2mm礫含む、白・黒色粒1%以下で雲母を含む。

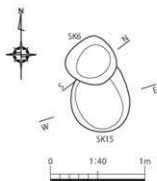
第38図 4・5号土坑 (SK4・5) 断面図

#### SK5セクション



- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い、1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、白色粒1%を含む。

第39図 5号土坑 (SK5) 断面図



#### SK6

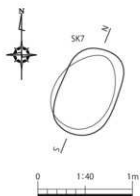
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い、黒色粒・2mm石を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細砂粒 締まりやや強く、粘性強い、黒色粒・明黄褐色土 (10YR6/6)10%を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い、中砂粒・明黄褐色土 (10YR6/6)15%を含む。



#### SK15

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性強い。

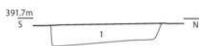
第40図 6・15号土坑 (SK6・15)



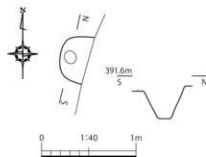
#### SK7

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い、明黄褐色土 (10YR6/6)10%・1mm石を含む。
- 2 明黄褐色土 (10YR6/6) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い、暗褐色土 (10YR3/4)30%を含む。

第41図 7号土坑 (SK6・15)

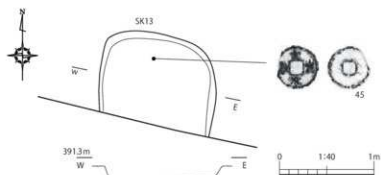


SK8  
1 暗褐色 (10YR3/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い。  
明黄褐色土 (10YR6/6) 10%・1mm石を含む。

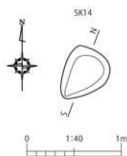


第 43 図 10号土坑 (SK 10)

第 42 図 8号土坑 (SK 8)



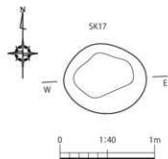
第 44 図 13号土坑 (SK 13)



SK14

- 1 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm塵・白色粒 1%以下を含む。
- 2 暗褐色土 (10YR2/4) 細砂粒 SK14-1 が 15%混じる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い。白・黒色粒 1%以下を含む。

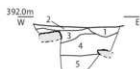
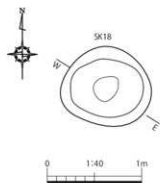
第 45 図 14号土坑 (SK 14)



SK17

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) マーブル状 10%を含む。
- 2 明黄褐色土 (10YR6/6) 細砂粒 締まり強く、粘性弱い。

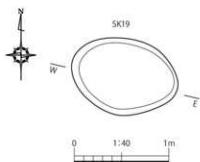
第 46 図 17号土坑 (SK 17)



**SK18**

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 黄褐色土 (10YR5/6) ブロック 40%を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや強い。 黄褐色土 (10YR5/6) ブロック 10%を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まりやや強く、粘性やや強い。 白色粒 1%以下を含む。

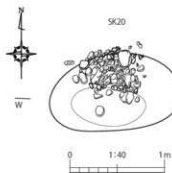
第47図 18号土坑 (SK18)



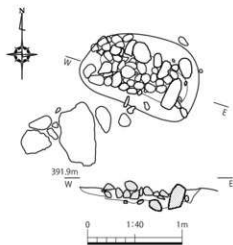
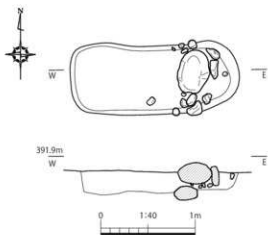
**SK19**

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) 5%を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒・雲母 1%以下を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。SK19-1 層土が塊に3%混じる。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや強い。SK19-2 層土が塊に15%混じる。
- 5 黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや強い。SK19-3 層土が塊に30%混じる。

第48図 19号土坑 (SK19)

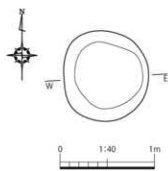


第49図 20号土坑 (SK20) (集石土坑)



第50図 21号土坑 (SK21) (集石土坑)

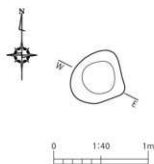
第51図 22号土坑 (SK22) (集石土坑)



SK23

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。SK23-4 層土が順に 10% 混じっている。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや弱い、粘性弱い。雲母 1% 以下・SK23-4 層土が順に 5% 混じる。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。白色粘・黄褐色粘 1% を含む。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。3mm 礫 1% を含む。SK23-2 層土が 25% 混じる。

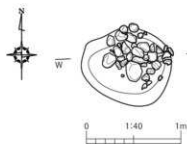
第 52 図 23 号土坑 (SK 23)



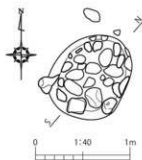
SK24

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。白色粘・雲母 1% 以下を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/3) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。白色粘 1% を含む。SK23-3 層土 30% が混じる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粘・黒色粘 1% 以下を含む。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。雲母 1% 以下を含む。SK24-1 層土 3% が順に混じる。

第 53 図 24 号土坑 (SK 24)



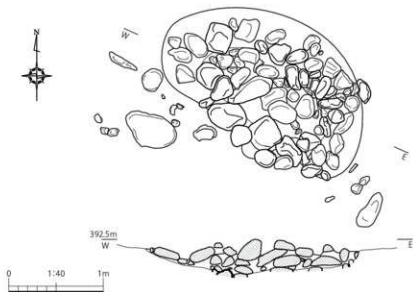
第 54 図 25 号土坑 (SK 25) (集石土坑)



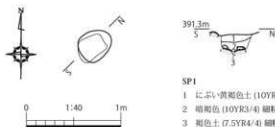
SK26

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。雲母 1% 以下を含む。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/4) 10% を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。SK26-2 層土が順に 20% 混じる。
- 4 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや粘性弱い。雲母・白色粘 1% 以下を含む。

第 55 図 26 号土坑 (SK 26) (集石土坑)



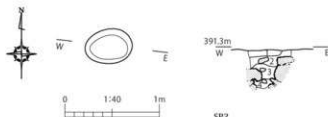
第56図 31号土坑 (SK 31) (集石土坑)



SP1

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い、1mm塵・白色粒1%以下を含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い、1mm塵を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い、白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。

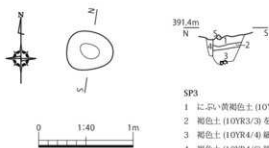
第57図 SP 1



SP2

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い、1mm塵・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い、白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性強い、2mm塵含む、白・黒色粒1%以下、石(S)を含む。
- 4 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い、2mm塵含む、白・黒色粒1%以下で雲母を含む。

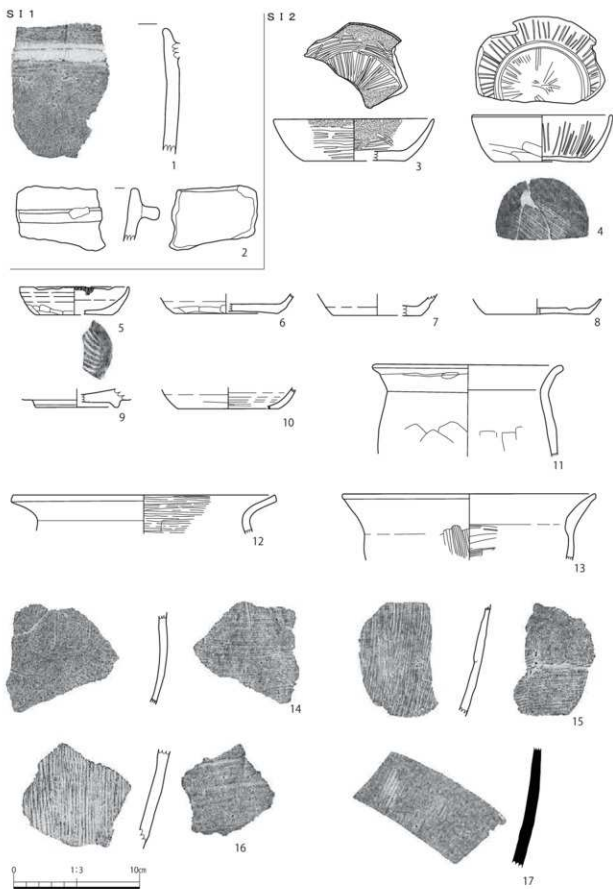
第58図 SP 2



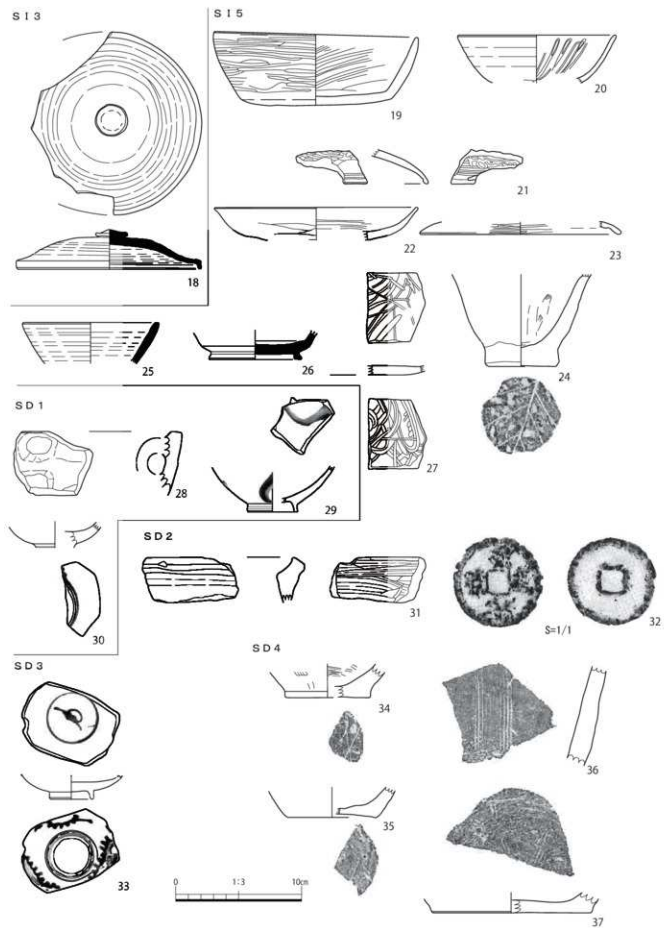
SP3

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い、1mm塵・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR3/3) を20%含む。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い、雲母1%以下を含む。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い、白色粒1%以下を含む。

第59図 SP 3

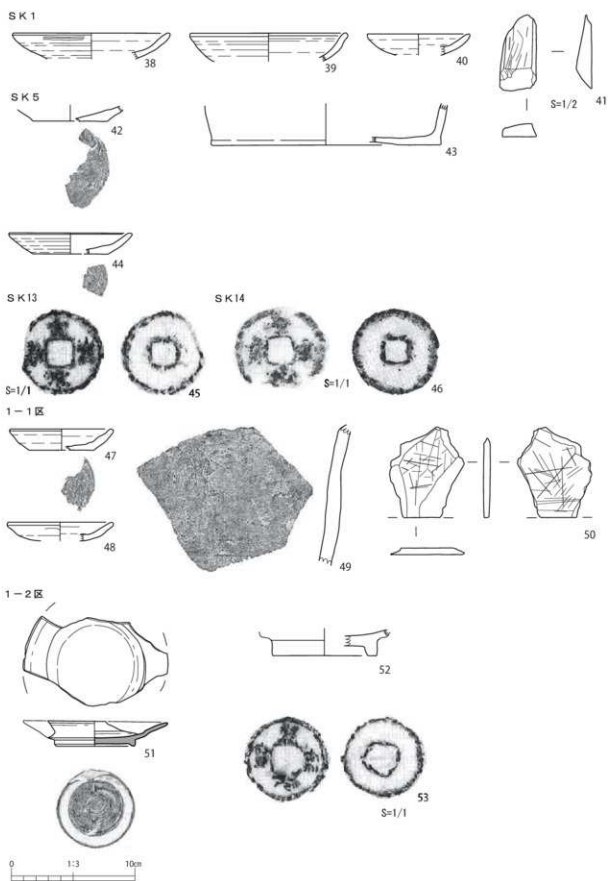


第60图 遗物实测图(1)



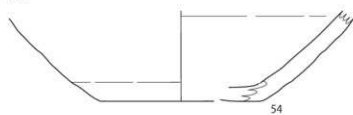
第 61 图 遺物実測図 (2)





第 62 图 遗物实测图 (3)

2区



54



55



56



57



58



59



60



61



4区



63



64

5-1区

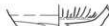


65

5-2区



66



67



68

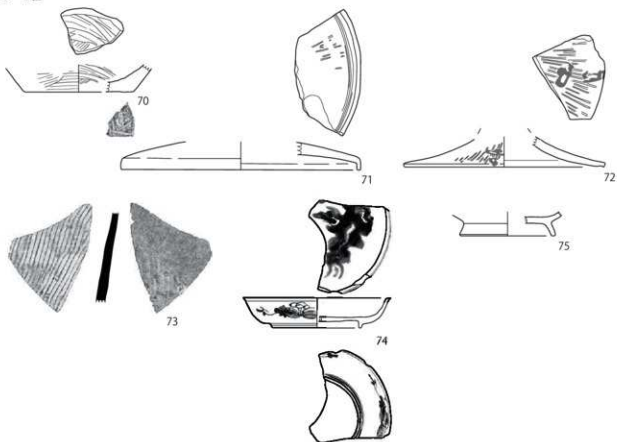


69

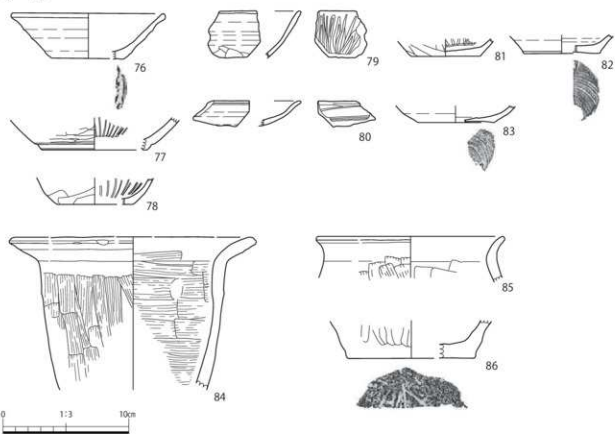


第63图 遺物実測図(4)

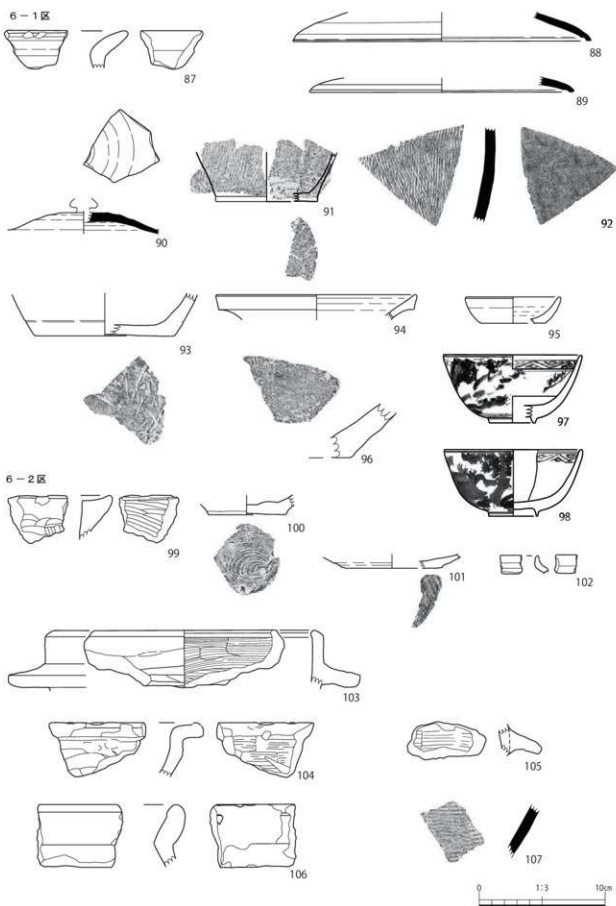
5-2区



6-1区

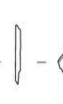
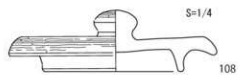


第64图 遗物实测图(5)



第 65 图 遺物実測図 (6)

6-2区



縄文土器

1-1区



113

2区



114

5-2区



115



116

6-1区



117



118



119



120



121



第66图 遗物实测图(7)

第2表 土器・陶磁器観察表(1)

〔 〕 測定値 ( ) 推定値

番号 番号	出土地点	種別	器種	質量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期	
				口径	直径	高さ							
1	1-1区	S1	土師器	針釜	—	—	(4.2)	口縁部~体部、 腹部欠損	明赤色	良好	長石・石 英・金雲母	直線的に立ち上がり、口縁部ははや内 側に傾く。踵は口縁部基部下付近。内 外面ともナリ調整。	奈良・平安
2	1-1区	S1	土師器	針釜	—	—	(10.0)	口縁部~体部	明赤褐色	良好	長石・石 英・金雲母	直線的に立ち上がり、口縁部ははや内 側に傾く。踵は口縁部基部下付近。踵 は外面が肥厚。内外面ともナリ調整。 見込み部に放射状筋文。体部外面は縦位 のヘラミガキ。底部との間にヘラケズ リ。底部は全面ヘラミガキ。	奈良・平安
3	5-2区	SE2	土師器	環	(12.8)	(8.0)	3.8	口縁1/8~底部 1/4	褐色	良好	赤色粘 土	見込みに放射状筋文。体部下平 ヘラケズリ。底部は全面ヘラミガキ 後、外面をヘラケズリ。	奈良・平安
4	5-2区	SE2	土師器	環	(11.0)	(7.6)	(3.7)	口縁1/4~底部 1/4	明赤褐色	良好	赤色粘 土	見込みに放射状筋文。体部下平 ヘラケズリ。底部は全面ヘラミガキ 後、外面をヘラケズリ。	奈良・平安
5	5-2区	SE2	土師器	環	(8.6)	(6.0)	2.2	口縁1/4~底部 1/4	褐色	良好	赤色粘・白 色粘	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
6	5-2区	SE2	土師器	環	—	(8.0)	(1.6)	体部小~底部 1/3	明赤褐色	良好	赤 土	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
7	5-2区	SE2	土師器	環	—	(7.0)	(1.7)	体部小~底部 1/4	褐色	良好	赤色粘・白 色粘	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
8	5-2区	SE2	土師器	環	—	(8.2)	(1.2)	底部1/2	褐色	良好	赤 土	底部は全面ヘラミガキ。外面は肥厚。 内外面ともナリ調整。	奈良・平安
9	5-2区	SE2	土師器	高台杯	—	(6.6)	(1.3)	口縁小~底部	褐色	良好	赤色粘 土	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
10	5-2区	SE2	土師器	環	—	(8.0)	(1.7)	体部小~底部	明赤褐色	良好	赤色粘 土	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
11	5-2区	SE2	土師器	甕	(14.6)	—	(7.3)	口縁1/6~体部 口縁1/8~体部 小	明赤褐色	良好	白色粘 土	口縁部は外反。内外面ともヘラケズ リ。口縁部は「く」の字に外反。外面ナ リ。内面横位のハケ。	奈良・平安
12	5-2区	SE2	土師器	甕	(20.8)	—	(3.1)	体部小	良好	白色粘 土	口縁部は「く」の字に外反。外面ナ リ。内面横位のハケ。	奈良・平安	
13	5-2区	SE2	土師器	甕	(20.0)	—	(5.3)	口縁~体部	明赤褐色	良好	白色粘・金 色雲母	口縁部の中やかに外反。外面は縦位のハ ケ。内面は横位のハケ。	奈良・平安
14	5-2区	SE2	土師器	甕	—	—	(7.7)	体部	明赤褐色	良好	白色粘・金 色雲母	外面横位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
15	5-2区	SE2	土師器	甕	—	—	(8.9)	体部	明赤褐色	良好	白色粘・金 色雲母	外面横位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
16	5-2区	SE2	土師器	甕	—	—	(7.9)	体部	明赤褐色	良好	白色粘・金 色雲母	外面横位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
17	5-2区	SE2	須恵器	甕	—	—	(9.5)	体部	良好	褐色	外面にタタキ。自然熱。内面当り具。 外面に放射状筋文。	奈良・平安	
18	6-1区	SE3	須恵器	環器	(14.4)	2.6 きつま きつま	3.2	きつま~口縁部 1/2	黄灰色	良好	長石	外面に放射状筋文。	奈良・平安
19	6-2区	SE5	土師器	環	16.0	11.8	5.9	完形	褐色	良好	赤色粘 土	大形で身の深い。形は、弧状の底部。 はやや内側に傾く。内外面ヘラミガ キ。底部はヘラケズリ。	奈良・平安
20	6-2区	SE5	土師器	環	(12.4)	—	(3.8)	口縁1/4	明赤褐色	良好	赤色粘 土	内面は放射状筋文。外面は体部下平ヘ ラケズリ。	奈良・平安
21	6-2区	SE5	土師器	甕	—	—	(2.7)	体部	明赤褐色	良好	赤色粘 土	内面にらせん状筋文。	奈良・平安
22	6-2区	SE5	土師器	甕	(16.0)	—	(2.6)	口縁~体部	褐色	良好	赤色粘 土	内面にらせん状筋文。外面はヘラケ ズリ。内外面ともナリ調整。	奈良・平安
23	6-2区	SE5	土師器	甕	(15.8)	—	(1.5)	口縁小~体部小	明赤褐色	良好	赤 土	内外面ともナリ調整。	奈良・平安
24	6-2区	SE5	土師器	甕	—	5.3	(7.3)	体部1/4~底部	明赤褐色	良好	長石	外面に放射状筋文。下部はヘラケズ リ。内面横位のハケ。底部は全面ヘ ラミガキ。	奈良・平安
25	6-2区	SE5	須恵器	環	(10.6)	—	(3.3)	口縁小~体部小	黄灰色	良好	長石	内外面口縁ナリ。	奈良・平安
26	6-2区	SE5	須恵器	高台杯	—	(7.2)	(2.3)	体部小~底部	灰黄色	良好	白色粘 土	口縁ナリ。高台の断面形状は台形。 内外面ともナリ調整。	奈良・平安
27	6-2区	SE5	土師器	環	—	—	(0.7)	底部	明赤褐色	良好	赤 土	見込みにらせん状筋文。底部外面 は黒化。	奈良・平安
29	2区	SD1	磁器	碗	—	(4.0)	(4.7)	体部小~底部	透明釉	良好	磁器	染付。	近世・近代
30	2区	SD1	磁器	碗	—	—	(2.1)	体部	透明釉	良好	磁器	染付。	近世・近代
31	2区	SD2	土師器	甕	—	—	(3.6)	口縁小	良好	白色粘 土	外面ヘラミガキ。内面横位のハケ。	近世	
33	4区	SD3	磁器	碗	—	(3.2)	(1.9)	体部~底部	透明釉	良好	磁器	染付。	近世・近代
34	4区	SD4	土師器	甕	—	(6.6)	(2.7)	底部	明赤褐色	良好	白色粘 土	内外面ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
35	4区	SD4	土師器	環	—	(7.0)	(2.4)	底部1/4	明赤褐色	良好	赤色粘 土	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
42	1-1区	SK5	土師器	環	—	(6.0)	(1.3)	体部小~底部 1/4	褐色	良好	赤色粘 土	体部下平ヘラケズリ。底部は全面ヘ ラミガキ。外面は肥厚。内外面ともナ リ調整。	奈良・平安
48	1-1区	遊模外	陶器	皿	(8.4)	—	(1.5)	口縁1/8	良好	褐色	口縁部小~輪。外面は全面ヘラケ ズリ。	中近世	
51	1-2区	遊模外	民陶陶器	段皿	11.7	6.3	2.1	口縁1/4~底部 1/4	灰白色	良好	赤 土	口縁部と内面に輪。底部は全面ヘ ラミガキ。高台の断面形状は三角形。 内面に輪。瀬戸物。	近世
52	1-2区	遊模外	陶器	皿	—	(8.4)	(2.2)	底部1/3	明赤褐色	—	赤 土	内面に輪。瀬戸物。	近世
55	2区	遊模外	須恵器	甕	—	—	(5.7)	体部副片	灰黄色	良好	赤 土	外面にタタキ。内面に自然熱。	奈良・平安
56	2区	遊模外	須恵器	甕	—	—	(8.6)	体部副片	灰黄色	良好	赤 土	外面にタタキ。内面に自然熱。	奈良・平安
57	2区	遊模外	須恵器	甕	—	—	(11.8)	体部副片	灰黄色	良好	赤 土	外面にタタキ。自然熱。内面当り具。	奈良・平安
58	2区	遊模外	土師器	環	—	(7.0)	(2.9)	体部小~底部	明赤褐色	良好	赤色粘 土	口縁ナリ。底部は全面ヘラミガキ。 外面は肥厚。内外面ともナリ調整。	奈良・平安
59	2区	遊模外	土師器	環	(10.0)	(6.0)	2.4	口縁小~底部	褐色	良好	赤色粘 土	口縁ナリ。底部は全面ヘラミガキ。 外面は肥厚。内外面ともナリ調整。	奈良・平安
60	2区	遊模外	土師器	環	(11.0)	(6.0)	3.4	口縁1/8~底部 1/4	明赤褐色	良好	赤色粘・白 色粘	口縁ナリ。底部は全面ヘラミガキ。 外面は肥厚。内外面ともナリ調整。	奈良・平安
62	2区	遊模外	磁器	甕	—	(7.0)	(1.1)	底部1/4	透明釉	良好	磁器	染付。	近世
63	4区	遊模外	土師器	針釜	—	—	(3.4)	口縁小	良好	赤色粘・白 色粘	外面は全面ヘラミガキ。内面は肥厚。 口縁部はやや下方に下がる。	奈良・平安	

第2表 土器・陶磁器観察表(2)

( ) 測定値 ( ) 推定値

調査番号	出土地点	種類	器種	寸法(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
				口径	底径	器高						
65-5-1K	道橋外	土器器	高台杯	-	(10.0)	(1.0)	底部小	棕色	良好	赤色胎	見込み部に放射状筋文。底部に横へラケズリ。高台削り出し。	奈良・平安
66-5-2K	道橋外	土器器	甕	-	8.0	(4.2)	体部小～底部小	明赤褐色	良好	白色胎・赤色雲母	内外面に放射状筋文。底部木葉筋。	奈良・平安
67-5-2K	道橋外	土器器	甕	-	6.0	(2.1)	体部小～底部小	棕色	良好	赤色胎	内外面に放射状筋文。外面の体部下部にへラケズリ。底部に横筋切り。	奈良・平安
68-5-2K	道橋外	土器器	杯	-	6.0	(1.2)	底部小	明褐色	良好	赤胎	ロクロナデ。底部に横へラケズリ。	奈良・平安
69-5-2K	道橋外	土器器	甕	-	2.8	(0.7)	口縁小	にぶい赤褐色	良好	白色胎	ロクロナデ。口縁部に平直筋。	奈良・平安
70-5-2K	道橋外	土器器	甕	-	6.0	(2.2)	体部小～底部小	赤褐色	良好	白色胎	内外面へラケ。底へラケズリ。	奈良・平安
71-5-2K	道橋外	土器器	甕	(19.0)	-	(2.2)	口縁1/8	棕色	良好	赤色胎	内面に放射状筋文。	奈良・平安
72-5-2K	道橋外	土器器	甕	(15.8)	-	(2.4)	口縁1/8	にぶい赤褐色	良好	赤胎	内面に放射状筋文。外面に縦(指溝?)	奈良・平安
73-5-2K	道橋外	灰土器器	甕	-	7.2	-	体部断面	靑灰色	良好	赤胎	外面タタキ。内面に当て具痕。	奈良・平安
74-5-2K	道橋外	磁器	皿	(11.8)	(7.0)	2.4	口縁1/4～底部1/4	透明釉	良好	紺青	染付。	近世・近代
75-5-2K	道橋外	埴輪陶器	碗	-	7.4	(1.9)	底部小	灰オリーブ色	良好	紺青	ロクロナデ。口縁部がやや肥厚。底部に横筋。	奈良・平安
76-6-1K	道橋外	土器器	杯	(12.0)	5.8	(3.6)	口縁1/3～底部小	明赤褐色	良好	赤色胎	ロクロナデ。口縁部がやや肥厚。底部に横筋。	奈良・平安
77-6-1K	道橋外	土器器	高台杯	-	8.4	(2.6)	体部小～底部1.8	棕色	良好	赤色胎・赤色胎	内面に放射状筋文。外面は体部下部へラケズリ。	奈良・平安
78-6-1K	道橋外	土器器	杯	-	6.0	(2.1)	体部小～底部1.8	棕色	良好	赤色胎	内面に放射状筋文。外面は体部下部をへラケズリ。	奈良・平安
79-6-1K	道橋外	土器器	杯	-	-	(3.7)	口縁小	明赤褐色	良好	白色胎	内面に放射状筋文。外面は体部下部をへラケズリ。	奈良・平安
80-6-1K	道橋外	土器器	皿	-	-	(2.0)	口縁小	棕色	良好	赤色胎・白色胎	内面の見込み部に体部の境をへラミガキ。	奈良・平安
81-6-1K	道橋外	土器器	杯	-	5.4	(1.4)	底部1/4	棕色	良好	赤色胎	内面に放射状筋文。外面は体部下部をへラケズリ。	奈良・平安
82-6-1K	道橋外	土器器	杯	-	6.0	(1.5)	体部小～底部小	棕色	良好	赤胎	ロクロナデ。底部に横筋切り。	奈良・平安
83-6-1K	道橋外	土器器	杯	-	6.0	(1.3)	体部小～底部1/6	にぶい赤褐色	良好	赤色胎	ロクロナデ。底部に横筋切り。	奈良・平安
84-6-1K	道橋外	土器器	甕	(18.4)	-	(3.1)	口縁1/8～体部小	明赤褐色	良好	白色胎	内面に放射状筋文。外面に横筋。口縁部は大きき外反。	奈良・平安
85-6-1K	道橋外	土器器	甕	(4.8)	-	(3.6)	口縁1/8～体部小	にぶい赤褐色	良好	白色胎	内面に放射状筋文。外面に横筋。口縁部は大きき外反。	奈良・平安
86-6-1K	道橋外	土器器	甕	-	(10.0)	(3.0)	底部1/3	にぶい赤褐色	良好	赤胎	内外面に放射状筋文。外面は体部下部をへラケズリ。底部木葉筋。	奈良・平安
87-6-1K	道橋外	土器器	甕	-	-	(3.1)	口縁小	明赤褐色	良好	白色胎	ロクロナデ。	奈良・平安
88-6-1K	道橋外	灰土器器	甕	(23.7)	-	(2.3)	口縁1/8	にぶい赤褐色	不良	赤胎	ロクロ調整。	奈良・平安
89-6-1K	道橋外	灰土器器	甕	(21.0)	-	(1.2)	口縁1/10	灰白色	良好	赤胎	ロクロ調整。	奈良・平安
90-6-1K	道橋外	灰土器器	甕	-	-	(1.7)	底部1/6	黄灰色	良好	赤胎	ロクロ調整。つまみ部欠損するが電線赤。	奈良・平安
91-6-1K	道橋外	土器器	甕	-	6.0	(3.9)	底部1/8	にぶい赤褐色	良好	赤色雲母・白色雲母	内面に放射状筋文。外面に横筋。口縁部は大きき外反。	奈良・平安
92-6-1K	道橋外	灰土器器	甕	-	-	(7.6)	体部断面	靑灰色	良好	赤胎	外面タタキ。内面に背筋状の当て具痕。	奈良・平安
93-6-1K	道橋外	陶器	甕	-	(11.0)	(3.4)	体部小～底部小	靑灰色	良好	白色胎	ロクロナデ。底部へラケズリ。	平安～中世
94-6-1K	道橋外	灰土器器	皿	(15.8)	-	(2.0)	口縁小	オリーブ黄色	良好	赤胎	内外面に横筋。	奈良・平安
95-6-1K	道橋外	土器器	杯	(7.4)	5.0	(2.1)	口縁1/4～底部1/4	棕色	良好	赤胎	ロクロナデ。	奈良・平安
97-6-1K	道橋外	磁器	碗	(10.8)	5.4	5.4	口縁1/3～底部3/4	透明釉	良好	紺青	染付。	近世
98-6-1K	道橋外	磁器	碗	(10.8)	5.3	5.3	口縁1/3～底部3/4	透明釉	良好	紺青	染付。	近世
99-6-2K	道橋外	土器器	鉢	-	-	(3.8)	口縁小	明赤褐色	良好	赤胎	内外面に放射状筋文。外面は口縁部は横筋ハケ。体部は縦筋ハケ。	奈良・平安
100-6-2K	道橋外	土器器	杯	-	6.2	(1.6)	底部	棕色	良好	赤色胎	内外面にロクロナデ。底部に横筋切り。	奈良・平安
101-6-2K	道橋外	土器器	杯	-	6.0	(1.1)	底部1/4	明赤褐色	良好	赤色胎	ロクロナデ。底部に横筋切り。	奈良・平安
102-6-2K	道橋外	土器器	壺か	-	-	(1.5)	口縁小	明赤褐色	良好	白色胎・赤色胎	ロクロナデ。	奈良・平安
103-6-2K	道橋外	土器器	引蓋	(10.4)	-	(4.7)	口縁1/6～体部小	にぶい赤褐色	良好	赤胎	内面へラケ。蓋部はやや平直。	奈良・平安
104-6-2K	道橋外	土器器	引蓋	-	-	(2.5)	体部断面	明赤褐色	良好	赤胎	蓋の長さ2.5cm。	奈良・平安
106-6-2K	道橋外	土器器	甕	-	-	(5.0)	口縁小	黒色	良好	白色胎・赤色胎	ロクロナデ。外面黒化。	近世
107-6-2K	道橋外	陶器	甕	-	-	(4.3)	体部断面	にぶい赤褐色	良好	赤胎	外面タタキ。	平安～中世
108-6-2K	道橋外	土器	火消壺蓋	23.7	受部径15.2	7.0	一次欠損	黒色	良好	白色胎	内外面に横筋。外面はミガキ。	近世
109-6-2K	道橋外	磁器	鉢	(15.2)	6.4	(4.3)	口縁1/4～底部1/4	透明釉	良好	紺青	染付。型紙彫り。	近世
110-6-2K	道橋外	磁器	碗	-	5.8	(2.9)	底部1/6	透明釉	良好	紺青	染付。	近世
111-6-2K	道橋外	磁器	皿	-	5.8	(1.5)	底部3/4	透明釉	良好	紺青	染付。見込み部に五弁花。	近世

第2表 土器・陶磁器観察表(3)

( )検元値 ( )残存値

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
				口径	口径	高さ						
113-1-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(3.0)	口縁小	明赤褐色	良好	長石	口縁部を外に折り返す。体部は褐色の漆喰。褐色の穴眼。	五瀬ヶ台式
114-2区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(5.9)	体部小	明赤褐色	良好	長石・雲母	他文は縄文。一部磨り直し。	五瀬ヶ台式
115-5-2区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(4.3)	体部小	明褐色	良好	長石	太い穴眼。	資料式
116-6-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(3.6)	体部小	明褐色	良好	長石・雲母	平截竹首の押印跡。	十三区様式
117-1-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(4.8)	体部小	明赤褐色	良好	石英・長石	平截竹首の縁部の穴眼を褐色の穴眼で充填。	五瀬ヶ台式
118-6-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(3.8)	体部小	明赤褐色	良好	白色粒	他文は縄文。褐色の太い穴眼。	
119-6-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(2.6)	体部小	明赤褐色	良好	長石	縄文。	
120-6-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(3.6)	体部小	明赤褐色	良好	石英・長石	十字状の太い穴眼の穴内面に褐色の穴眼を充填。	五瀬ヶ台式
121-6-1区	遺構外	陶文土器	深鉢	—	—	(5.3)	口縁小	明赤褐色	良好	白色粒	口縁部に灰目。平截竹首の縁部の押印跡。	五瀬ヶ台式

第3表 中世遺物観察表

( )検元値 ( )残存値

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
				口径	口径	高さ						
28-1-1区	SD1	土器	内耳罎	—	—	(5.1)	口縁小	にぶい赤褐色	良好	長石・石英・黒色粒	直径1.6cm。体部は中や外に開く形状か。外面に灰付着。	中世
36-4区	SD4	瓦質土器	すり鉢	—	—	(7.8)	体部小	褐色	良好	金色雲母・長石	11番1単位のすり目。	中世
37-4区	SD4	土器	すり鉢	—	—	(12.4)	底部小	褐色	良好	赤色粒	6番1単位のすり目。	中世
38-1-1区	SK1	土師土器	かわらけ	(12.4)	—	(2.1)	口縁1/4	にぶい褐色	良好	紺	口縁の調整。口縁部は中や外に開く。外面に灰付着。	中世
39-1-1区	SK1	土師土器	かわらけ	(12.6)	—	(2.3)	口縁1/8	紺	良好	金色雲母	口縁の調整。口縁部は内側に立ち上がり。断面は中や外に開く。	中世
40-1-1区	SK1	土師土器	かわらけ	(8.2)	—	(1.7)	口縁1/8	にぶい紺	良好	金色雲母	口縁の調整。	中世
43-1-1区	SK5	土器	内耳罎	—	—	(18.4)	底部小	にぶい褐色	良好	白色粒・赤色粒・金色雲母	断面は平らで、器厚0.5cm。体部外面に灰付着。耳部分は遺存しない。	中世
44-1-1区	SK5	土師土器	かわらけ	(9.8)	(6.6)	(1.7)	口縁小	にぶい褐色	良好	白色粒	口縁の調整。底部は転車切り。	中世
47-1-1区	遺構外	土師土器	かわらけ	(8.2)	(5.2)	1.7	口縁1/4～底部1/4	褐色	良好	紺	口縁ノズル。底部は転車切り。	中世
49-1-1区	遺構外	土器	内耳罎	—	—	(11.4)	体部破片	褐色	良好	白色粒	外面に灰付着。	中世
54-2区	遺構外	土器	鉢	—	—	(13.0)	体部小～底部1/4	にぶい赤褐色	不良	赤色粒・白色粒	口縁ノズル。外面に灰。	中世
61-2区	遺構外	瓦質土器	すり鉢	—	—	(10.0)	底部1/6～体部小	にぶい黄褐色	良好	赤色粒	すり目4番1単位か。	中世
64-4区	遺構外	瓦質土器	鉢	(19.0)	—	(5.2)	口縁小	褐色	良好	白色粒・赤色粒	口縁ノズル	中世
96-6-1区	遺構外	瓦質土器	すり鉢	—	—	(4.3)	底部小	暗灰黄色	良好	長石	脚目あり。	中世
104-6-2区	遺構外	土器	罎	—	—	(4.3)	口縁小	褐色	良好	白色粒・赤色粒	外面に灰付着。	中世

第4表 石製品観察表

( )検元値 ( )残存値

遺物番号	出土地点	種別	種類	法量(cm)			備考	時期
				長さ	幅	厚さ		
41-1-1区	SK1	石製品	砥石	(4.1)	1.8	(0.8)	磨り面あり。	中世か
50-1-1区	遺構外	石製品	石版	(4.9)	(3.5)	0.4	表面に磨痕あり。	
112-6-2区	遺構外	石製品	石版	(5.0)	(4.3)	0.4	表面に磨痕あり。	

第5表 金属製品観察表

( )検元値 ( )残存値

遺物番号	出土地点	種別	種類	法量(cm)			備考	時期
				長さ	幅	厚さ		
32-2区	SD2	鉄	貫木通宝	2.4	2.4	0.5	—	近世
45-1-1区	SK13	鉄	—	2.3	(2.2)	1.0	厚肉のため判別不能	
46-4区	SK14	鉄	—	(2.1)	2.4	0.5	厚肉のため判別不能	
53-1-2区	遺構外	鉄	聖宋元宝	2.3	2.3	1.0	北宋銭(1101年以降)	中世



## 第5章 総括

### 第1節 調査の成果と課題

今回の調査により得られた結果と課題をいくつかまとめてみる。

#### 1. 奈良・平安時代

集落の広がり確認できた。調査によって1-1区、5-2区、6-1区、6-2区において計5軒の住居址が検出された。5-2区のS I 3と6-2区のS I 5からは8世紀前半から9世紀初めに属する甲斐型の坪が出土した。周辺の近接遺跡からも同時期の住居址は検出されており集落の一端を示していると考えられる。また、山梨市教育委員会によって6-2区最北端の調査区外の東西に延びる土塁に沿って確認調査が行われ、土塁の下から住居址と思われる痕跡が検出された。さらに集落は東に広がっている可能性がある。

#### 2. 土塁と溝 (第67図)

今回の調査の大きな目的の一つは、調査区の東側に隣接する土塁とその関連遺構の検出であった。調査では土塁に沿って3条の溝を検出している。2・3区で検出したS D 1、2区の南側の東西方向の土塁に沿って検出したS D 2、4区から6区で検出したS D 3である。S D 1は現状で残っている石積みに沿って検出したもので、15世紀後半頃の内耳土器が出土している。磁器も出土しており埋没は近世以降となるが溝の構築時期を推定する材料の一つにはなる。S D 2・3では中世の遺物の出土はなかった。土層観察では土塁側からの崩落土とみられる部分もあったが、土塁の基底部など構築の痕跡を示すものは確認できなかった。いずれの溝も東側の立ち上がりは調査区外に延びており正確な規模は不明で土塁の下に溝が続いている可能性も考えられる。ただし、現在残されている土塁と溝とが構築当初から一体のものであったのか、後世の改変を受けているのかは不明である。今後、土塁の断ち割り調査等が行われれば性格や時期も明らかになると思われる。特に井尻氏館跡あるいは現在の井尻氏宅を囲む土塁との関わりは、重要な課題とも言える。

#### 3. 条里

条里に関わると想定される遺構が検出されている。

「峽東条里」は笛吹市一宮伊弉間神社から清白寺東側、甲州市塩山土塩後と山梨市下井尻の境界線をつなぐ筋を南北の軸線としている。九世紀前半に施工されたと思われ、その角度は東に12度振れている。一方の「八幡条里」は窪八幡神社と天神社を結ぶ筋を東西の軸線としており、南北は東に24度振れている。成立は16世紀初頭またはそれ以前に成立していたとされている。今回の調査区が位置する下井尻はこの峽東条里と八幡条里が駿している区域にあたる。

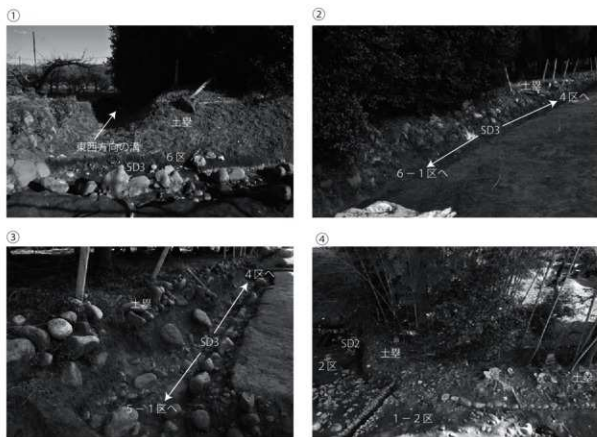
今回2区で検出されたS D 1の主軸の方向はN-12°-Eを指しており峽東条里の主軸の方位と一致している。S D 1は2・3区の調査区外の南北に走る石積みに沿って検出された(図版6のS D 1)。現状の石積みは、積み直しの可能性が高いが、調査区外の石積みの最下段から根石状の長さ約60cm大の川原石が検出された。最下段は構築時の状態を保っている可能性が有り、石積みと溝との関係は今後の調査によって解明される(図版6 S D 1セクション参照)と思われる。なお、井尻氏屋敷を囲む土塁や今回調査されたS D 3、更には周辺の土地区画等の軸についても方向性があり、二つの条里との関わりから分析する必要がある。

#### 4. 集石遺構・配石遺構

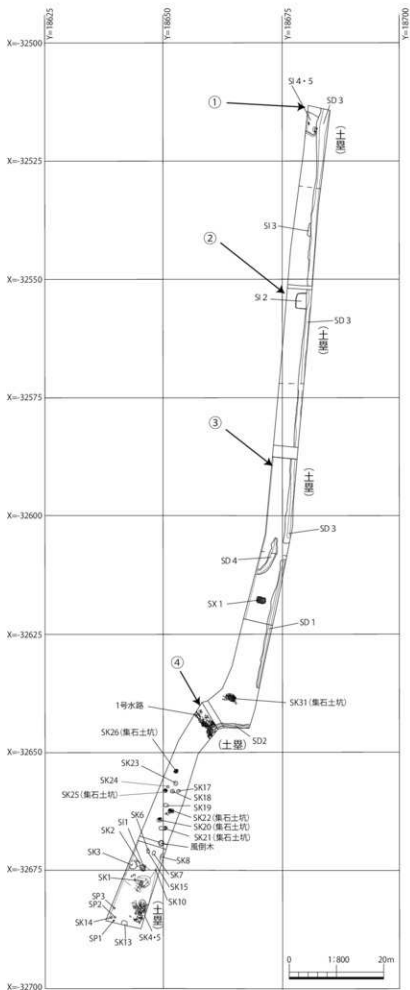
S K 1の上端のほぼ中央で配石が検出された(図版9)。中央に配置された石はほぼ円形で、石の片端は棒状のものをはめ込むように挟まれており、その石をさらにサイズの小さい石で囲っている。遺物は覆土から中世のかわらけが出土しており、検出状況から中世の祭祀に関連する遺構の可能性が考えられる。一方、その他の集石土坑は石の配列に規則性は無い。石に焼けた痕跡はなく、祭祀的な要素も見られず性格は不明である。



画像 ©2022 Maxar Technologies、地図データ ©2022 50 m



第67図 地籍図に見える土塁の痕跡と現況



第 68 図 遺構と土壘の位置関係 (○数字は第 67 図と同じ位置を示す)

## 第2節 十王堂・井尻氏

### 1. 十王堂（＝応現寺）

今回の調査で「十王堂」に関する遺構・遺物は確認されなかったが、山梨市史の記事を時系列に挙げる。

①万治元年（1658）に「雲が開基したと伝えているが、当初は十王堂として建立された。

〔明治5年明細〕 応現寺の項

一 万勝寺末「六年（＝明治六年）九月中庵寺」 甲斐山応現寺

「万治元己戌年十月十一日創建、開基了雲ヨリ尔来当壬申迄二百五十年至当住無之、京都府管轄西京東六条本願寺末万勝寺住職兼務」

一 境内 二畝歩 但元除地

一 檀家 無之

②正徳元年（1711）除地を認められた検知の時も寺名はなかった。

庶寺書上（抄）

一 敷地四畝六歩 踏碓芝門 此代金五円

右応現寺号之儀者何レノ頃ヨリ相問候哉、旧記等者無之、正徳元辛卯年御検知節者十王堂御繩請ニテ、右寺号無御座候

③元文四年（1739）に祠堂金貳両を寄付された教伝は十王堂の堂宇だから当寺への寄付といえるが、この時点でもまだ寺名は記されない。

享保九年下井尻村村鑑明細帳

一 除地四畝 門徒宗堂守教伝 十王堂敷地村支配

右は古来より除地に御座候処、十五年巳前卯年松平甲斐守様御検知之節、御代にて検知御水帳に御書載被下候、古来之証文等は無御座候、村支配十王堂守教伝儀者前々より借地に差置申候、宗旨人別之儀も前々より村内へ組入申候

④宝暦八年（1758）の下井尻依田長安葬儀の際に「応現寺」として見舞っていることからこれまでの間に「応現寺」と号するようになったと推測される。

孝徳院齋行二付香資付持送物差遣覚帳「依田一代記」

明治初年には無住で、本寺が兼帯しており明治六年（1873）九月庶寺となった。

「応現寺」については、（県行政『山梨郡庶寺処置品取調』二）

庶寺仏像書上

山梨郡第拾二区下井尻村 応現寺

十三仏木像 拾式

右村副戸長 依田周兵衛

明治七年二月 戸長 依田福鶴

山梨県権令藤村紫雲殿

十王から十三王信仰へ

庶寺堂宇書上（抄）

十王堂 一桁間九尺 一梁間九尺 此代金八拾五錢老厘

庶寺遺物書上（抄）

本堂 一桁間四間 一梁間三間半 此代金五円

その他、年号の分かる記載としては、

・（就掃參寺号「応現寺」と被成御免候二付覚） 粟沼勝兵衛 明暦四年（1658）

- ・享保9年(1724) 門徳宗十王堂
- ・応現寺棟札写 名主他 宝暦二年(1753)
- ・(十王堂敷地借住二付済口証文) 寛政十年(1798)  
済口証文=江戸時代の民事訴訟において和齋が成立したとき当事者の取り交わした証文の記述が見える。

今回の調査では十王堂に関連する遺構・遺物は確認出来なかったが、古文書にはいくつかその名が挙がっており、今後の周辺の調査によって下井尻村の中世から近世の村落にかかわる遺構・遺物が検出できる可能性はある。

## 2. 井尻氏

文献で確認できる井尻氏に関わる文書を示した。

井尻氏に関わる文書は、昭和35年(1960)に井尻源氏から「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館」に譲渡された。その目録は『学術情報リポジトリ 史料館所蔵史料目録 第13集 甲州井尻家(同) 依田家・追補(同) 秋山家』の中で紹介されている。

上記の目録中「井尻家文書解題」の中で井尻家について次のような記述が確認できる。

- ・井尻家の元祖は近江の佐々木源三秀義であると云われている。  
佐々木源三は平安時代末期の武将である。元暦元年(1184)に三日平氏の乱(平氏都落ちの後、伊賀・伊勢、潜伏していた平氏残党が蜂起した乱)において甲賀郡上野村で戦死している。
- ・初代は、元祖から二十二代の佐々木十郎善法の代に甲斐郡に入り、武田氏に仕えて武田典範信繁の藩子として善法を繁法に改めた。
- ・一族の徳見簡三善法の井尻郷にある跡屋敷に住み井尻と改めた。
- ・永禄元年(1558)川中島で戦死した。
- ・繁法を初代とすると三代元繁は天正十年(1582)徳川家康の入国の際、起請文に名を列ね女将状を授けられる。  
安政4年(1857) (团右衛門・源三両家同居屋敷境木伐払為取替規程書)
- 文久2年(1862) (下井尻村三郎兵衛より清兵衛買取地組井尻源三持畑立木材引取方出入一件書付)
- 慶応2年(1866) (井尻源三他八人立木伐払開発致し畑方井田方起返り二付対談書)
- 明治元年(1868) 三月「井尻藤右衛門屋敷境石積立方一件書付)
- 明治15年(1882) 長屋門棟上見舞録  
長屋門建築職工雇控 (長屋門建築)
- 明治25年(1892) (下井尻字榎田耕地絵図而論明瞭) 字榎田の地名
- 明治29年(1896) 居宅出火
- 明治38年(1905) 榎木宗渡シ代金請取証  
字榎田と呼ばれていた榎木か?
- 明治41年(1908) 居宅を東八代郡湯村大字下岩崎内田氏より購入移築した。

その他、山梨市史史料編 考古・古代・中世では「井尻源四郎屋敷」として「土塁の痕跡が残る。源四郎は永禄十二年八月、「下井尻村 踏出 合式重貫参百八拾五文」を認められている。屋敷地の南方に後屋敷の地名が残るが関係は未詳」とある。

井尻氏は、古文書では確認できるもの当時の建物の位置や規模を伺えるような資料は現在のところ無いため、調査によって検出された溝・土塁や「井尻氏文書」は非常に重要な資料となる。

## 引用・参考文献

- 森原明廣 1993 「山梨県地域における内耳土器の系譜」『山梨県考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要9』
- 佐々木満 2004 「山梨における中近世土器の様相」『山梨考古学論集V』山梨県考古学協会
- 佐々木満 2011 「甲斐国における中世後半の土器一鉢・鍋を中心に」『山梨懸考古学協会誌』第20号
- 山梨市教育委員会 1987 『日下部 日下部史跡調査報告書』
- 山梨市遺跡調査会・山梨市教育委員会・朝日商事株式会社 1995 『東後屋敷遺跡』山梨市文化財調査報告書 第4集
- 山梨市・財団法人山梨文化財研究所 2004 『堀ノ内遺跡』山梨市文化財調査報告書 第7集
- JA フルーツ山梨・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所 2005 『高畑遺跡』山梨市文化財調査報告書 第8集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市・公益財団法人山梨文化財研究所 2016 『江曾原遺跡』山梨市文化財調査報告書 第25集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所 2018 『中沢・阿弥陀堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 第28集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所 2020 『十王堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 36集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社 2021 『阿弥陀堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 39集
- 山梨県 1998 『山梨県史 資料編1』原始・古代1 考古(遺跡)
- 山梨県 2004 『山梨県史 通史編1』原始・古代
- 日下部町 1952 『日下部町誌』
- 山梨市 2005 『山梨市史』史料編 考古・古代・中世
- 山梨市 2007 『山梨市史』通史編 上巻



調査区全景 西から



調査区全景 北西から



6-2区全景



5-2区全景



6-1区全景



5-1区全景





4区全景



1~3区全景



1-1区 S11検出状況 南から



1-1区 S11東西セクション 南から



1-1区 S11南北セクション 西から



5-2区 S12完掘 北西から



5-2区 S12東西セクション 南から



5-2区 S12南北セクション 西から



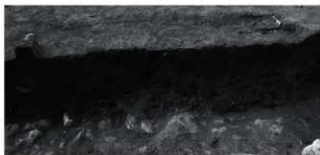
5-2区 S12掘り方 北西から



5-2区 S12遺物出土状況 東から



6-1区 S13完掘 東から



6-1区 S13西壁セクション 東から



6-1区 S13土器出土状況 東から



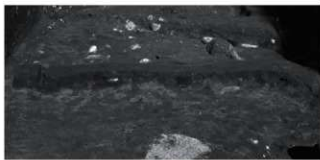
6-2区 S14・5検出状況 南から



6-2区 S14・5検出状況 西から



6-2区 S14カマド・焼土検出状況 南から



6-2区 S14・5東西ベルトセクション 南から



6-2区 S14・5南北ベルトセクション 西から



6-2区 S14・5西壁セクション 東から



6-2区 S15カマド 南東から



6-2区 S15土器出土状況 西から



2区 SD1 (写真下の石積みに沿っている) 東から



2区 SD1セクション 南から



2区 SD2 北から



2区 SD2南壁セクション 北から



2区 SD2南\_東壁セクション 西から



6-2区 SD3北壁セクション (西側) 南から



6-2区 SD3北壁セクション 南から



6-2区 SD3東壁セクション 西から



5-2区 SD3南壁セクション 北から



5-2区 SD3・S12 北から



5-1区 SD3 北西から



4区 SD3 北から



4区 SD3東西方向石列 南から



4区 SD4 西から



4区 SD4南壁セクション 北から



1-2区 1号水路 北から



1-2区 1号水路 西から



1-2区 1号水路 北西から



1-2区 1号水路 南西から



1-2区 1号水路 南から



1-1区 SK1 南東から



1-1区 SK1配石 東から



1-1区 SK1・4・5 西から



1-1区 SK3 南東から



1-1区 SK6 南東から



1-1区 SK6セクション 南東から



1-1区 SK7 東から



1-1区 SK7セクション 東から





1-1区 SK 18 南東から



1-1区 SK 18セクション 南東から



1-1区 SK 19 南から



1-1区 SK 19セクション 南から



1-1区 SK 20 南東から



1-1区 SK 20セクション 南から



1-1区 SK 22 北から



1-1区 SK 23 南から





1-1区 SK 25 南から



1-1区 SK 26 東から



1-1区 SK 26 セクション 東から



1-1区 SK 28 南東から



1-1区 SK 31 南東から



1-1区 SK 31 西から



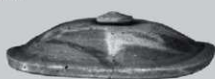
1-1区 SP 1 東から



4区 SX 1 西から



S 13



S 15



SD 1



SD 2



SD 3



SD 4

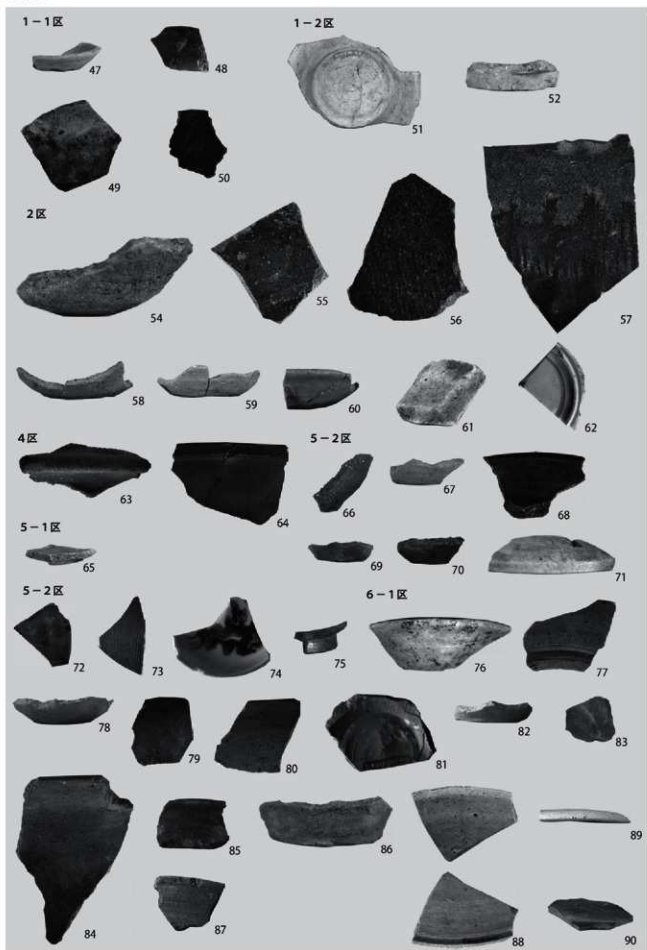


SK 1

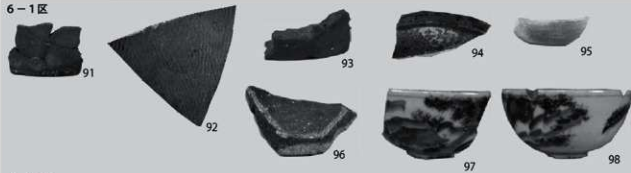


SK 5

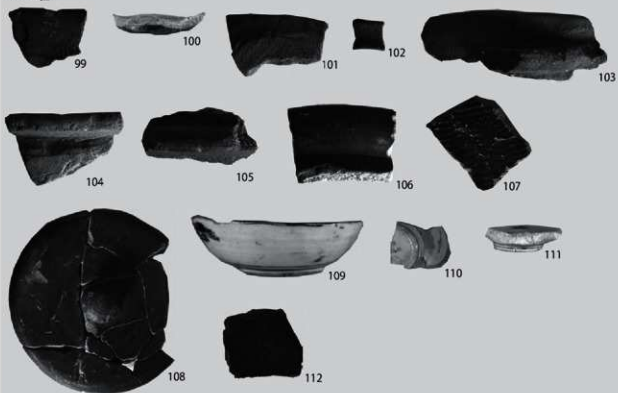




6-1区



6-2区



绳文土器



## 報告書抄録

ふりがな	じゅうおうどうどういせき・いじりしやしきあと
書名	十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡
副書名	令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事
巻次	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
編著者	小谷亮二・藤登浩太郎・駒田真人
編集機関	昭和測量株式会社
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号 TEL055-235-4448
発行年月日	2023(令和5)年3月15日

ふりがな	ふりがな	コ	一	下	世界測地系	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	道庁番号	北緯	東経			
じゅうおうどうどういせき・いじりしやしきあと	やまなしけんやまなししよしみへいりやうじやまあと	19205	85	35° 42' 21"	138° 42' 23"	20201012 ～20210219	1,090m <sup>2</sup>	令和2年度県営畑地帯総合整備事業
十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡	山梨県山梨市下井尻977～1024-3番地							

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡	集落、屋敷跡	縄文時代、奈良・平安時代、中世、近世	住居址、土坑、ピット、溝状遺構、水路	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、かわらけ、土器(内耳鍋・すり鉢)、瓦質土器、陶器、磁器	8～9世紀初頭の住居址が検出された。

要約	<p>5軒の住居址を検出し、8～9世紀初頭に属する遺物が出土した。周辺の遺跡の調査でも同時期の遺物が出土しており、当該時期の集落の広がりが想定できる。</p> <p>調査区東端部では、調査区外を南北に走る土塁や石積みに沿った位置で溝を検出した。溝の埋土には近世の遺物が混入するが、内耳鍋など中世の遺物も出土しており、溝の構築時期を推定する上で重要な資料である。今後、土塁の構築時期や構造の解明によって、溝との関係を含め全体像が見えてくるとと思われる。</p>
----	---

山梨市文化財調査報告書 第43集

### 十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡

— 令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事—

2023(令和5)年3月15日 発行

編集 昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号

TEL 055-235-4448

発行 山梨県東農務事務所・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社

印刷 株式会社内田印刷所